

FM島田の行政番組

『多様性ってなんだろう』



ダイジェスト版

令和5年6月～令和8年3月

目次

01. 多様性に関する意識啓発アドバイザー
02. LGBTからSOGIへ
03. LGBTQの当事者が抱える困りごと
04. SOGIに関するハラスメント
05. カミングアウトとアウティング
06. パートナーシップ宣誓制度について
07. アライについて
08. トランスジェンダーと性同一性障害
09. 市民意識調査を読み解く
10. 心理的安全性とは
11. ダイバーシティ&インクルージョンとは
12. 多様性について考える
13. プライド月間~おすすめメディア特集~
14. LGBTQの歴史
15. 微細な攻撃~マイクロアグレッション~
16. みんながってみんないい（前編）
17. みんながってみんないい（後編）
18. 性同一性障害特例法について
19. LGBTQに対する企業の取組
20. LGBTQのための居場所づくり（前編）

コンセプト

FM島田の行政番組「多様性ってなんだろう」は、性の多様性やジェンダーに関するさまざまな情報を紹介することで、性的マイノリティや性別によるさまざまな困難を抱える人への理解を深めてもらう番組です。

メンバー



天草 美樹

島田市市民協働課女性活躍推進担当
会計年度任用職員/
多様性に関する意識啓発アドバイザー



津島 加代子

FM島田パーソナリティ
通称：シマカコ

第1回

R5.06放送

多様性に関する 意識啓発アドバイザー

津島：番組では、多様性に関する意識啓発アドバイザーの天草美樹さんを招いて、LGBTQを含む全ての人々が性別にとらわれない価値観を持って、自分らしく生きるために「多様性ってなんだろう」という疑問について考えていきます。

天草：こんにちは！多様性に関する意識啓発アドバイザーの天草です。性別（ジェンダー）に関わる課題の意識啓発を通して、だれもが生き生きと暮らせるまちづくりを目指す、専門職員です。

津島：普段はどのような業務にあたっているのですか？

天草：今は、職員が多様な性のあり方について知るきっかけとなるような冊子を作成しています。仕事や日常生活の中で、当事者と向き合うヒントとして活用いただければと思います。

津島：冊子があればいつでも確認できますから、助かりますね。ところで、アドバイザーになったきっかけは？

天草：大学時代に性の多様性について学び興味を持ちました。今も女性蔑視やLGBTQに対する差別など、ありのままに生きるのに困難を感じてしまう状況があるということに危機感を抱いていたところ、募集を見かけてアドバイザーになることを決意しました。

津島：縁あって来ていただけてよかったです！

では、タイトルにもある「多様性」ってなんなんでしょう？

天草：一人一人の今まで生きてきたルーツや生き方を尊重し、共生していくことだと思います。まずはお互いのことを知ることが「多様性」の第一歩ではないでしょうか。

天草：理解を強制するのではなく、違いを前提とした考え方が重要だと思います。

津島：では、「性のあり方」とはどういうことでしょうか？

天草：「男は男らしく、女は女らしく」とか、「男性と女性は互いに惹かれあって、結婚して子どもを育てることが幸せ」というような考えから、「自分らしく幸せに生きる」考え方へ変わることなのかなと解釈しています。性別によって強制や制限がなく、誰もが自分らしく生きるということではないでしょうか。

津島：では、「LGBTQ」とは？

天草：いわゆる「異性愛者」で「出生時の性別に違和感がない」人“以外”のすべての人を総称した言葉です。

LGBTQは趣味や気分で簡単に変えられるようなものではなく、また病気のように治療して治すようなものでもないということを、当事者でない人に知ってほしいと思います。

津島：LGBTQというワードはいつから使われるように？

天草：1980年代にアメリカの当事者たちが、性的マイノリティの集団として連帯していくために名乗り始めました。

天草：「レズビアン」「ゲイ」「バイセクシュアル」「トランスジェンダー」という4つの言葉の頭文字を合わせた言葉です。最近では、これに「クエスチョニング」または「クィア」という意味のQが加わっ

て、LGBTQとも呼ばれています。津島：島田市は今後どのような取組をされるのですか？

天草：市民向け、職員向けにそれぞれ啓発活動を行っていきます。国の判断や社会の流れに合わせて発信していきたいと思います。

津島：では、天草さんの今後の抱負について教えてください。

天草：人との違いで生きづらさを感じる人が一人でも減ること、違いで諦めずに済む人生を誰もが送れるようになるといいなと思います。そのために、違いを尊重する意識の醸成が必要です。活動を通して、みんなが安心して暮らせる社会に進んでいくといいですね。

津島：市民協働課の天草さんでした。ありがとうございました。



第2回

LGBTからSOGIへ

R5.07放送

天草：今回は、LGBTQにも関連が深いSOGI（ソジ/ソギ）という言葉について話したいと思います。

津島：初めて聞く言葉です。その言葉を知っている人はどれくらいいるんですか？

天草：認知度は10%程で、まだまだ知られていません。

津島：いつ頃から使われるようになったんでしょう？

天草：2006年の国際会議で使われたのをきっかけに、世界に広まりました。SO（セクシュアル・オリエンテーション）は日本語で性的指向、つまりどの性別の相手を好きになるかという意味。GI（ジェンダー・アイデンティティ）は、自分がどういう性別と認識しているのかという意味です。

津島：性的指向について詳しく教えてください。

天草：一般的に好きになる性別というと、異性を想定される場合がほとんどです。でも人によって、同性に対し恋愛感情や性的な魅力を感じる人もいます。なかには男性と女性どちらも対象となる人や、そもそも他者に恋愛感情や性的な欲求を抱かないという人もいます。

津島：では、ジェンダー・アイデンティティは？

天草：出生時に決められた戸籍上の性別と、自分の性別に関するアイデンティティは一致している人が多いですが、なかには一致していない人がいます。そのなかでも、ジェンダー・アイデンティティがこうとはっきり決まっている人もいれば、男ではないと思っているけど、かといって女かと言われればそれもじっくりこないというように、どっちつかずの人もいます。

天草：また、自分はよくわからない、決めたくない、どちらでもないという人もいます。

津島：性別に対し違和感を持つ人もおられるんですね。

天草：そのような人たちのことをトランスジェンダーと呼びますが、ジェンダー・アイデンティティは気分ですぐに変えられるものではなく、強く持続的に違和感を抱いている、という感覚の方が正しいといえます。日常生活において、性別をもとにした扱われ方に違和感や嫌悪感を抱いている人もいます。

津島：自身の性別に強い苦痛を感じている方は？

天草：生活に支障をきたすほどに自身の性別に苦痛を感じる人は、医師から性同一性障害という診断を受けたり、その程度に合った治療を受けたりすることがあります。カウンセリング治療、ホルモン治療、場合によっては性別適合手術といった治療を受けることもあります。

津島：そうなんですね。当事者の困難や課題についてまだまだ知らないことが多いので、これから知っていきたいと思います。

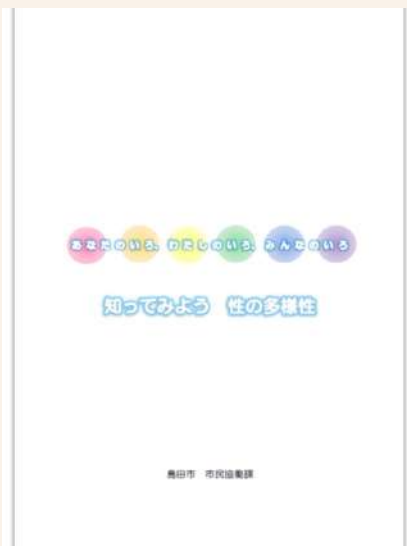
では、LGBTQとSOGIの言葉の使い分けについて教えてください。

天草：LGBTQは、性のあり方が定型でない方をまとめて呼ぶときに使われる言葉です。つまり、性的マイノリティの当事者を指すときに使います。

天草：一方、SOGIは「自分はどんな性別で、誰を好きになるか」という“全ての人に関わる性の要素”を指す言葉です。

性の多様性って少数の人たちだけの話と思われがちですが、誰もがこの話題の当事者なんだという意味が、SOGIには含まれていると思います。

津島：なるほど。私たちもみんな当事者だという意識を持ってみたいです。



島田市では、LGBTQやSOGIについてまとめたリーフレット「知ってみよう 性の多様性」を発行しています。

https://www.city.shimada.s-hizuoka.jp/fs/8/9/8/1/8/9/_/s-himinRF.pdf

第3回

R5.08放送

LGBTQの当事者が抱える困りごと

天草：今回は、LGBTQの当事者として生きる上での困り感について、3つ紹介します。

津島：1つめは？

天草：「本当の自分を周りに打ち明けられない」ことです。

LGBTQの当事者のほとんどは、自分が他の大勢の人とは違った感覚を持っているという意識を持っています。そして、自分の性のあり方を周囲に知られてしまうと、馬鹿にされたり仲間外れにされるのではないかという危機感や不安を持っていることがあります。

津島：だからなかなか打ち明けられないんですね。

天草：自分にとって大切な人、身近な人であればあるほど言いづらい傾向にあり、日頃から自分を偽って生きていたり、悩みがあっても相談できなかったり

することがあります。

周囲に話せないとなると、孤独な気持ちになって、落ち込んだり人と関わるのを避けてしまったりすることもあります。

津島：周りを失望させないために、求められる自分であろうと演じてしまうのかもしれませんが、とても辛いことです。

天草：2つめは、「将来像が描けない」ことです。

周囲に打ち明けないために、同じ当事者同士でもお互いのことを知らない可能性が高いんです。自分と同じような人に出会えない孤独感があります。

津島：もしかしたら共感してくれる人にも、気づけないかもしれませんね。

天草：特に従来メディアでは、そうした人達が苦悩したり笑いものになっているようすが

描かれることが多く、自分になりたい姿で活躍することが想像しにくいのだと思います。

津島：ドラマやバラエティーだと極端なキャラクターとして描かれることもあります。一般的に自立した大人として生きる姿というのは、なかなか想像しがたいのかもしれません。

天草：自分と似た人が社会で活躍している姿が見られないと、自分はこのままちゃんとした大人になれるのかとか、ありのまま生きていけるのかという不安に駆られてしまいます。将来への期待がなかなか持てず、自分を生きづらくしてしまう危険もあります。

津島：3つめは？

天草：「存在を想定されていない」ことです。

周囲の人にとっても、当事者の存在を身近に感じる機会がないため、ついつい当事者のことを想定しない対応を取ってしまいます。例えば、同性同士で家建てようと思うと、関係性を疑われたり詮索されたりすることがあります。また、見た目の印象で性別を決めた対応をされることも、LGBTQの当事者にとっては苦痛です。

LGBTQ=テレビで見る変わった人というイメージを持つ人もいますが、そもそもLGBTQについて教わってこなかったために、そうした印象が先行してしまう人もいます。

津島：この番組を通して少しずつ世間の認識が変わっていくといいですね。では、当事者への対応を心がける際のアドバイスについて教えてください。

天草：いつも身近にLGBTQの当事者がいるかもしれないと想定した発言を心がけること。一人ひとりみんな違いがあるということ想定していれば、自然と多様性を尊重した行動を取れると思います。

「普通はこう」ではなく、「私はこちら思う」という言い方に変えてみるのもいいですね。

津島：最後に、もしいま聞いている方で困っている方がいたらどうしたらいいのか、アドバイスをお願いします。

天草：静岡県では、LGBTQの専門相談を行っています。LGBTQの当事者だけでなく、その周囲の方も相談できます。秘密は守られますので気軽にご相談ください。

ふじのくにLGBT電話相談は
こちらから↓



第4回

R5.09放送

SOGIに関する ハラスメント

天草：今回は、SOGIに関するハラスメントについてお話したいと思います。

津島：SOGIに関する不当な扱いや嫌がらせがあるんですね。

天草：このような扱いのことを「SOGIハラ」といいます。セクハラやパワハラと同様、SOGIハラもハラスメントの一種です。

津島：どんなことがハラスメントにあたるのですか？

天草：特定の属性に対する悪口や無視、暴力に加えて、単に面白がって笑いのネタにしたり、侮蔑的な呼び方をしたり、そうしたからかいもハラスメントにあたる場合があります。

津島：笑いのネタにして面白がるのは良くないですね。

天草：「うちの職場には同性愛者なんていないよね」といった

発言も、言った本人に差別的な意識があるかどうかに関わらず避けた方が良い表現だと思います。

津島：どうしてですか？

天草：その人が気づいていないだけで、周りには言わずに隠して生活しているLGBTQがいるかもしれないからです。

津島：そうなんですね。そこは意識していませんでした。

天草：SOGIを理由に仕事での不当な異動や解雇、内定取り消しをしたり、その人のSOGIについて本人の許可なく公表したりすることは、パワーハラスメントにあたることもあります。もし別の人に知らせる必要がある時は、本人の同意を得てから伝えるよう注意が必要です。

津島：まず知ることが必要ですね。

津島：他にも気をつける点はある
ますか？

天草：他にも、SOGIハラにはこん
な問題があります。1つめは、

「SOGIハラは周囲の憶測によって
被害に遭う可能性がある」こと。
独身の人に対して、「この歳まで結
婚しないなんて、君は同性愛者な
のか」という発言があったとしま
す。その人が同性愛者かどうかは
関わらず、ただ独身であるとい
うだけでそうだと決めつけて発言
していますよね。

仮にその人が同性愛者だったとし
ても言うべきではありませんが、
そうでなかった場合も、言われた
ら嫌な気持ちになります。

津島：そうではないのにそう思わ
れるということもあるのですね。

天草：2つめは、LGBTQの当事者
自身が、当事者であることを周り
に悟られないために、自らSOGIハ
ラに加担してしまうケースです。

津島：当事者が自らハラスメント
に加担してしまうこともあるん
ですね！？

天草：周囲が差別的な言動をして
笑っているときに同調してしま
ったり、LGBTQの話題が出たとき
にとっさに否定的な発言をしたり
することで、自分の居場所を守ら
うとするんです。

そうならないために、当事者が嘘
をつかなくても生きられるような
環境を、身近なところから作っ
ていくことが必要です。

津島：嘘をつかなければならな
いというのも、本当に辛いこと
ですよね。では、どうしたら良
いでしょうか。

天草：身近にハラスメントを見
聞きした時の対応方法をご紹介
します。

1つめは、その場でハラスメン
トを指摘して制止する方法。

2つめは、周囲に報告し、対応
したり防止したりする方法。

3つめは、とっさに関係のない
内容に話題を転換するなどし
て、場の空気を換える方法。

4つめは、被害者をフォローす
る方法。被害者に対して「大丈
夫？」と声をかけたり、差別的
な言動をした人に後から遠回し
に指摘したりする方法です。

津島：方法を知っておけば、で
きることは増えそうです。

天草：人によってとっさにでき
るアクションは異なりますが、
共通しているのは、差別的な言
動に対して“決して同調して笑
ったり、加担したりしない”と
いうことです。「その言動は全
く面白くないですよ」「良くな
いことですよ」というメッセ
ージを、態度で示すことが重要
です。

津島：差別に加担しない姿勢で
変わる環境もありそうですね。

第5回

R5.10放送

カミングアウトと アウティング

天草：今回は、「カミングアウト」と「アウティング」についてお話をしたいと思います。

カミングアウトとは、自身のSOGIについて、その人が自らの意思で他の誰かに打ち明けることをいいます。

津島：よく聞く言葉ですね。

天草：語源は、coming out of the closetといって、LGBTQの当事者が自分の性のあり方を言えずに心のクローゼットに閉じこもっている状態から、勇気を出してクローゼットの外に出るという意味でそう呼びます。

津島：語源がクローゼットからだったとは。

天草：普段から性のあり方を周囲に公表している人を、扉が開いている意味のオープン、普段は隠して生活している人を、扉が閉まっている意味のクローズドと表現することもあります。

津島：イメージできました。

カミングアウトの注意点について教えてください。

天草：カミングアウトは、当事者本人が自ら打ち明ける行為です。他人を介してその情報が伝わってしまうと、それはカミングアウトではありません。

本人の了承なく、勝手に情報が広まってしまう状態をアウティングといいます。

津島：どういうことをすると、アウティングになるのですか？

天草：4つのパターンを紹介します。

1つめは、噂話として広めること。知らぬ間に本人が知られたくないと思っている人にまで伝わってしまうかもしれないという不安に繋がります。

津島：勝手に広められるのは嫌ですね。

天草：2つめは、自分以外も既に知っているものだと思って話してしまうこと。その情報が周知されているものだと思い込んで話すことで、意図しない人にまで伝わってしまうことがあります。

津島：思い込みで、人を傷つけてはいけませんよね。

天草：3つめは、カミングアウトされた人がそのことを他者に相談してしまうことで、情報が広まってしまうこと。カミングアウトされて、一人では抱えきれない問題だと判断した時は、身近な人ではなく、守秘義務のある相談窓口を利用するようにしましょう。

津島：カミングアウトされる側もよく考えないとならないということですね。相談窓口を利用するという選択肢も入れておくと良いですね。

天草：4つめは、本人にカミングアウトを強要すること。ある人には打ち明けられたとしても、他の人にはまだ慎重な状態にいる人もいます。

「社員全員に打ち明けられないなら、あなたを採用しない」など、本人にとって不利になる条件を突き付けて、カミングアウトさせることもしてはいけません。

津島：強要するのは良くないことですが、どうしても必要な場面に出くわしたときはどうすればいいのでしょうか。

天草：どうしてもカミングアウトしなければならない場面に直面することもあります。事情があって聞いている場合もありますが、カミングアウトが難しい当事者にとっては、とてもストレスフルなことです。

津島：ありのままに生きたいものですね。

天草：当事者がありのままに生きられるようになるためには、たとえカミングアウトしたとしても本人が不利にならない環境が作られていること、望まないカミングアウトを強要しなくても済むような仕組みが作られていること、この2つが同時に実現していることが重要です。

津島：もし、誰かからカミングアウトされたらどうしたらいいのでしょうか。

天草：まずは、「勇気を出して話してくれてありがとう」と伝えること。そして、「なにか自分にできることはある？」と聞いてみること。また、誰になら伝えてもいいのか聞くことが重要です。

津島：当事者の意向をしっかりと汲むということ、本当に大事ですね。その人の側になって考える、思える人でありたいです。

第6回

パートナーシップ 宣誓制度について

R5.11放送

天草：今回は、「パートナーシップ宣誓制度」についてお話ししたいと思います。

この制度は、法律上婚姻が認められていない同性カップル等の存在を尊重し、お互いを人生のパートナーとして認め合った二人が協力して共同生活を行うことを宣誓した場合に、その宣誓を県や市区町村が受領したことを証明する制度です。

津島：なんとなくニュースで聞いたことがあります。

天草：静岡県では、2023年3月に導入されました。

津島：導入されたばかりなのでですね。なぜこの制度が新設されたのですか？

天草：社会におけるLGBTQの認知は進んでいる一方で、パートナーシップ関係にある同性カップル等は、まだまだ生活上の困りごとを抱えています。

天草：制度の導入によって、それらの困りごとが軽減したり、解消したりする可能性があると考え、年々導入する自治体が増えていきます。

津島：いつ頃からこの制度ができて、現在どのくらい導入されているのでしょうか？

天草：2015年に、東京都の渋谷区と世田谷区で基盤となる制度が導入され、現在までで県単位での導入、市町レベルでの導入を合わせて350自治体で施行されています。

津島：どのくらいの人達が宣誓したのでしょうか？

天草：宣誓数を公開していない自治体もありますが、現在までで少なくとも4000組以上のカップルに交付されています。

津島：でもまだまだこの制度を利用したいというカップルは多いでしょうね。

天草：周りに関係知られる不安から、宣誓に踏み込めないカップルもいるので、周囲の環境の変化も必要です。

津島：LGBTQのカップルには、どんな困りごとがあるのですか？

天草：国内の医療機関での病状説明や、手術の同意、面会などの場面では、法律上の家族でないためにパートナーとして認めてもらえないことがあります。

津島：それは辛いですね。島田市ではどうでしょうか。

天草：島田市総合医療センターでは、制度が導入される前から当事者に聞き取りをした上でそれらの場面においても対応していましたが、制度が導入されたことで、宣誓書受領証を持つ人にはよりスムーズな対応が可能となりました。

津島：他にもありますか？

天草：住宅を借りたり、購入したりするときにも、自分達の関係性を打ち明けなければならなかったり、法律上のパートナーでないことなどを理由に契約を断られたりすることがあります。

津島：島田はどうでしょうか。

天草：島田市では、宣誓書受領証の提示で市営住宅の入居申し込みが可能となりました。民間企業でも、同性カップル等に理解を示す会社が増えてきています。

津島：この制度によってどんなことが期待できますか？

天草：制度自体に法的な効力はないため、宣誓をしても婚姻と同等

の扱いになるわけではありません。しかし、制度導入をきっかけに、あらゆる場面において当事者を想定した対応ができるよう変化した部分もあります。

津島：理解とともに変わっていかねばなりませんね。

天草：なにより、人々に広くLGBTQの存在を知ってもらう効果が見込めることに、この制度が創設された意味があると思います。

津島：まずは知ってもらうことが、第一歩ですね。

天草：当事者にとっても、自分達の存在を行政が認識し、応援してくれているのだという希望になります。

津島：自治体が認め、応援してくれているというのは本当に心強いことですね。

実際に制度を利用したカップルの声はありますか？

天草：「自分達の意味だけで繋ぎとめていた関係を、公的にサポートしてくれることで安心できた」という声や、「住んでいる地域での制度導入をきっかけに、初めて両親に同性同士で付き合っていることを打ち明けられた」というような声が全国で挙がっています。

津島：それは大きな希望となったことでしょう！良かったです。

第7回

アライについて

R5.12放送

天草：今回は、LGBTQに理解を示し、支援する「アライ」について紹介したいと思います。

津島：初めて聞きました。どんな意味でしょうか？

天草：アライは英語で「仲間」や「同盟」を表す単語で、LGBTQの置かれた状況や課題を理解し応援したり、自分事として行動したりする人のことを言います。

津島：どのような人がアライになれるのですか？

天草：アライはその人がLGBTQの当事者かどうかに関わらず、誰でもなることができます。生きづらさを抱えるLGBTQにとって、アライは大きな安心感につながる重要な存在です。

津島：誰でもなることができるのですね。どんなことから始められるのでしょうか？

天草：まずは多様な性について知ることから始めてみましょう。

津島：どうやって知れますか？

天草：LGBTQに関するニュースに耳を傾けてみたり、そうしたテーマについて身近な人と話題を共有したり、研修や講座を受講して知識を深めてみると思います。

津島：書籍などで学ぶこともできますか？

天草：県内の公共図書館では、LGBTパネル展など参考書籍が紹介されるイベントが開催されています。

津島：そして、このコーナーでも学ぶことができますね！

他になにかできることってありますか？

天草：では、自分がアライであることを表明してみましょう。

天草：LGBTQのシンボルとして、6色のレインボーが掲げられています。

当事者の姿が見えづらいのと同じように、当事者を応援しようと思っている人の気持ちも表面的にはなかなか見えづらいので、表明することが必要です。

津島：それは確かにそうですね。

天草：私は以前、美容院や観光ホテルの受付カウンターで、アライを表明する装飾などが置いてあるのに気づいたことがあります。それを見たときに、この施設はLGBTQの人達にもフレンドリーな場所なんだなと嬉しくなりました。

津島：島田市では、子育てを支援する気持ちを表明する「ひとりじゃないでね」の活動が広まっていますが、それと同様に、島田は様々な立場の人を受け入れたい、応援したいという土壌があるように思います。

天草：次に、アライとして実際に行動してみましょう。

性別によって決めつけた考えをやめて、多様な性のあり方を前提とした発言を心がけてみるとか、LGBTQの存在をからかったり、馬鹿にしたりして笑いのネタにすることをやめるなど、些細なことから意識を変えていきましょう。

津島：それならできそうです。

天草：LGBTQをテーマにしたイベント「レインボープライド」に参加するのもいいかもしれません。

天草：東京で開催されるレインボープライドはアジア最大規模と言われていますが、近年では、地方でもレインボーパレードを開催する地域が増えてきています。

津島：へえ、パレードですか！
県内でもありますか？

天草：県内では2023年6月に第1回浜松レインボープライドが開催されました。

私もパレードに参加してみたいんですが、わざわざお店から出てきて手を振る方や、車の停車中にグッドサインをくれた方など、街全体が温かい雰囲気包まれていたのを感じました。

津島：それは本当に素敵なことですね。今回アライについて学びましたが、なぜアライの存在がLGBTQにとって重要なんでしょうか？

天草：実はLGBTQに対する差別的な言動を見聞きした時に、当事者が自ら立ち向かうのは容易なことではありません。そこで頼りになるのがアライの存在です。アライは客観的、中立的な立場からLGBTQに対する誤った知識や言動を是正することができます。

皆さんも「知る、表明する、行動する」を通して、アライになってみてください！

第8回

R6.01放送

トランスジェンダー と性同一性障害

天草：今回は、トランスジェンダーと性同一性障害についてお話したいと思います。

津島：近年よく耳にはしますが、同じような意味だと思っていました。トランスジェンダーから説明をお願いします。

天草：トランスジェンダーは、出生時に割り当てられた性に違和感を抱いている人のことを言います。割り当てられた性と性自認との間にズレがあることで、社会生活に困難やストレスが生じることがあります。

津島：想像以上に、困難やストレスは大きいようですね。

天草：さまざまな状態があり、性自認がはっきり決まっている人もいれば、「男でも女でもない、性別を決めたくない」という人もいます。

性別をどちらとも認めたくない人（ノンバイナリー）の割合は

実は意外と多いんです。

津島：性別を決めたくない方が多いとは、全く想像していませんでした。

トランスジェンダーはどのような困難を抱えているのでしょうか？

天草：性自認とは違う性役割を周囲から期待されることで、自由な選択を阻害されたり、トランスジェンダーの存在が想定されない環境で、居場所がないと感じたりすることがあります。

津島：居場所がないと感じるのは辛いことですね。

天草：周囲に知られるといじめやハラスメントに遭うリスクもあるため、隠しながら生活をするストレスもあります。

津島：胸が痛いですね。

天草：トランスジェンダーの約半数が、10代の頃に不登校や自傷行為を経験しています。

津島：本当にショックです。なんとか救える手立てはないものか…。

天草：次に、性同一性障害について説明します。性同一性障害は、こうした違和感を強く持続的に感じる状態にある人が、そこから生じる苦痛などを解消するために、医学的な治療をするための“診断名”として使われる言葉です。

津島：診断名だったのですか？その治療とはどんなものですか？

天草：精神科医によるカウンセリング治療やホルモン治療、性別適合手術などを行っていきます。

津島：医学的な治療を受けたい方は多いのでしょうか？

天草：全ての当事者が治療を望むわけではありません。望んで診断された場合にのみ、性同一性障害という名前がつきます。

津島：そういうことなんですね。

天草：治療は身体に負担を強いるため、推奨はできません。しかし、生きづらさを解消させるための手段にはなります。ですが、戸籍上の性別を変更するためには必要な要件があります。

津島：戸籍上の性別を変更することもできるんですか？

天草：日本では、2003年から、戸籍上の性別変更が可能になっています。

津島：どのくらいの方が性別を変更されているのでしょうか？

天草：これまでに届け出を受理された方は、約1万人と言われていきます。

天草：しかし、治療が高額なことや、身体的な負担から治療を受けられない人、住んでいる地域に診断や治療を行える病院がないなどの理由で、たとえ性別変更を望んでいても実現できる人は少ないと言われています。津島：なかなか一筋縄ではいかないということですね。

天草：性別変更後もホルモン投与などの治療は継続されます。

津島：そうした苦勞を知り、少しでも理解に繋げたいですね。

天草：国内で戸籍上の性別を変更するには、生殖機能をなくす手術を受けることが規定されていますが、2023年に、この規定は憲法違反であるという判決が下されました。

津島：ニュースで聞いたことがあります。

天草：しかし、他にも定められた要件があり、今回の判決によって急に戸籍上の性別を変更する人は増えないと思います。

一部では性犯罪の増加の恐れが懸念されていますが、当事者の有無に関わらず、風紀を維持しつつ安心安全な市民の暮らしが守られるべきです。市としても、多様な性に関する理解促進を今後も行っていきたいと思っています。

津島：それは必要ですね、よろしく願います。

第9回

市民意識調査を 読み解く

R6.02放送

天草：今回のテーマは、「市民意識調査を読み解く」です。市民意識調査では、2022年度から多様な性のあり方についての質問項目が追加されています。津島：市民に対する意識調査を行ったのですね。どのような結果だったのでしょうか。

天草：「あなたはLGBT（性的マイノリティ）を知っていますか」との質問に、「言葉も内容も知っている、言葉だけは知っている」を合わせた割合が、2023年度は77.5%でした。

津島：8割近いということで、結構多い印象ですね。

天草：私自身もここ数年で話題にあげられる機会が本当に増えたと感じていて、メディアの特集やニュースなどで見聞きした方も多いのではと感じます。

津島：本当にそのような機会が増えたと感じますね。

天草：「あなたはSOGIを知っていますか」という質問には、

「言葉も内容も知っている、言葉だけは知っている」を合わせた割合が約3割と、こちらはまだ言葉が浸透してきていない状況です。

津島：私もこのコーナーを通じて、SOGIという言葉を知りました。他にはどんな質問項目があったのでしょうか。

天草：「多様な性のあり方への理解促進などの取組の必要性について」の質問では、「今すぐ必要だと思う、今後必要になると思う」の合計が71.5%と、過半数を占めています。

津島：多くの方が必要性を感じているんですね。

天草：島田市に必要だと思う取組については、「多様な性のあり方について相談できる窓口の設置」が52%、

「教育の充実」が41%、「気持ちや情報を共有できる場所づくり」が32%となっています。

津島：相談窓口・教育・居場所、本当にどれも必要だと感じます。

天草：「相談窓口の設置」が一番多かったことを踏まえると、多くの人がLGBTQには特有の悩みがあるという認識があると推測できます。

津島：そのようですね。

天草：「教育の充実」という点では、多くの人がこれまで性の多様性について学ぶ機会を持っておらず、知る機会が必要だと考える人が多いのかもしれませんが。

津島：大人達も知る機会が必要だと感じます。実際にそうした機会はあるのですか？

天草：市では、2023年度に、職員約500名を対象にした性の多様性研修を実施しました。

津島：職員を対象に研修が行われたんですね。いかがでしたか？

天草：「LGBTQについて何となく聞いたことはあったけど、詳しい意味までは今まで知らなかった、勉強になった」といった感想がありました。またSOGIIについては、研修前の認知度は約3割でしたが、研修後には9割の職員が「知っている、聞いたことがある」と回答していて、研修の効果を実感しました。

津島：職員に知識があることは、当事者の方の安心にもつながりますね。

天草：市民の皆様に理解を深めていってもらうためには、まず職員が知識をつけることが重要です。今回は、その下準備に繋がったと思います。

津島：より市民に寄り添える市政へと繋がっていきますね。今後はどのような活動を推進されますか？

天草：2024年度に策定される第4次島田市男女共同参画行動計画では、基本的取組に新たに「個性を尊重し、多様性をもって共存できる環境の整備」が追加され、より一層多様な性のあり方に対する理解促進の取組が強化されます。

とはいえ、多様性をもった環境は一朝一夕でできるものではないので、長い年月を見据えて、地道に取り組んでいきます。

津島：一步一步ですね。その取組の一環として何かありますか？

天草：市民協働課では、年に一度市民向け性の多様性理解促進セミナーを開催しています。

2023年度は、元プロサッカー選手の下山田志帆さんをゲストにお呼びして、ご自身のこれまでの人生経験を踏まえたお話をさせていただく予定です。

津島：どんなお話が伺えるのでしょうか。楽しみですね。

第10回

R6.03放送

「心理的安全性」 とは

天草：今回のテーマは、「心理的安全性」です。

津島：心理的安全性、初めて聞く言葉です。

天草：心理的安全性とは、組織の中で自分の考えや気持ちを安心して発言でき、その発言について拒絶されたり、罰せられたりしないと確信できる状態のことです。例えば、仕事で悩んだとき「こんな些細なことで相談したら迷惑じゃないか」とか、あるいは会議で「自分の意見はきっと反対されるだろうから言わないでおこう」という場面ってよくありますよね。もしかするとそれは、心理的安全性が低い状態なのかもしれません。

津島：なるほど。LGBTQとはどんな関連性があるのですか？

天草：心理的安全性は、ジェンダー平等やLGBTQといった分野では重要なキーワードです。

天草：というのも、ジェンダー格差のある社会では、男性はリーダー的役割や重要な仕事を任されたりする一方で、女性は補助的な役割を与えられたり、控えめで自己主張をしないことを求められたりする風潮があるからです。

津島：たしかに。変わってきているとはいえ、昔ながらの風潮が根強く根底に残っている部分がありますね。

天草：LGBTQの場合、当事者の多くは「ありのままの自分を周囲の人達に理解してもらえるだろうか」、「差別的な言動をされないだろうか」という不安を感じながら生活している状況があります。

だからこそアライがいる環境では、当事者達も不安を感じずに生き生きと過ごすことができるんです。

津島：望ましいことだと思います。

天草：国内の調査では、職場にアライがいること、LGBTQ施策の多い職場であることは、そこで働く当事者の心理的安全性が高くなることがわかっています。

津島：そうした理解に基づいた環境づくりが大切ですね。

天草：心理的安全性が知られるようになったきっかけが、Google社が2015年に発表した調査です。

Googleは、成果の出るチームの共通点について調査を行いました。結果、「心理的安全性は成功するチームの構築に最も重要である」ことがわかったんです。この結果から、心理的安全性はあらゆる人にとって必要で、より良い結果をもたらすものだということがわかりました。

津島：すごく納得できます。

天草：だからといってハード面での環境の改善を試みようとしても、一筋縄ではいかないかもしれません。そんなときは、安心して発言できる環境を約束した空間づくり、つまりソフト面から改善を目指すのも一つの手です。

津島：「安心して発言できる環境を約束した空間」というのは？

天草：静岡市では、にじいろカフェ、県では、いろいろにじいろ交流会という居場所交流会が開かれています。

津島：島田市ではどうですか？

天草：島田市も県の事業に協力し、地域での居場所となる場と機会を提供できればと考えています。

津島：それは期待したいですね。

天草：先ほど紹介したような居場所づくり事業には、必ずグラドルールが設けられています。「人の話を遮らない」とか「一人に発言が偏らないようにする」といった、その場で守らなければいけないルールのことです。

津島：とても良いことですね。

天草：私たちも普段の話し合いからそうしたルールを取り入れてみることで、心理的安全性の高い環境を実現していくと思います。

津島：職場や様々なコミュニティでグラドルールを決めて、共通認識とすることが当たり前になっていくと良いですね。



第11回

R6.04放送

「ダイバーシティ&インクルージョン」とは

天草：今回は、「D&Iを推進しよう」です。

津島：D&I、初めて聞く言葉です。

天草：D&Iはダイバーシティ&インクルージョンの略で「多様性」と「包摂」と訳されます。

津島：どんな意味ですか？

天草：違いを持った人達がお互いにその違いを認め合い、対等に関わりあう状態を言います。

津島：大切なことですね。

天草：従来は、労働者は均質で画一的な方が良いと考えられていました。経産省も、労働者に求められている能力は、2015年時点では「ミスがないこと」や「責任感があって真面目なこと」、「誠実さがあること」といった、同質性の高い項目を挙げています。

津島：なるほど。

天草：一方で2050年に求められる能力には、「問題を発見する力」や「適切な予測ができる力」、「革新性を持っていること」を挙げ、創造性が高く、自ら課題を見つけて柔軟に対応できる人材が求められています。

津島：ずいぶん変わってきているんですね。

天草：近年、事務や製造が機械やAIに取って代わりつつある一方で、ITの技術者や製品開発といった職種が伸びています。

津島：AIが介入できない部分ですね。

天草：新商品の開発や、前例のない課題解決には、多様な知識や背景を持った人が集まって考えた方がいいと思いませんか？ 実際、イノベーションを創出するためには、多様性は不可欠な要素です。

津島：多様性のニーズに、もはや目を背けられませんね。

天草：従来は、組織の多様性は売上に直結しないと考えられていましたが、現在はそれが利益や評価に繋がると考えられています。

津島：時代がどんどん変化してきましたね。

天草：ここで、D&Iの中の包摂という意味にも触れたいと思います。

津島：包摂...初めて聞く言葉です。

天草：実は単に多様な人が集まっただけでは、パフォーマンスが落ちてしまうこともあります。

津島：どうしてでしょうか？

天草：多様な人を受け入れたからといって、その人達が活躍する機会がなければ、その強みを活かすことができないからです。

津島：そっか、活かすという点が肝心なんですね。

天草：だからこそ、いろんな人が意見を述べ、その意見が尊重される環境＝「心理的安全性」が重要なんです。

津島：そこに結び付くんだ！

天草：そして、誰もがその個性や能力を十分に発揮し活躍できる状態こそが、インクルージョン＝包摂です。

津島：それが包摂なんですね。

天草：一方で、いろんな立場や考えの人が増えれば、それだけ対立や混乱のリスクもあります。それを回避するためには、議題やゴールを明確にして共有できていることが重要です。

津島：はじめに目標や意識を共有することが大切なんですね。

天草：ところで、東日本大震災以降、避難所運営における女性の視点の必要性が訴えられてきました。

津島：能登半島地震以降もよく耳にしますね。

天草：現在、全国の市区町村で生理用ナプキンを備蓄している割合は8割以上ですが、能登半島地震の被害を受けた避難所では、物資を配っていた男性からナプキンが1人2個ずつしか支給されなかったという声もありました。

津島：女性はそれでは困ったと思います。当事者でなければわからないこと、あらゆる場に必要な視点が必要なおことの一例ですね。

天草：まずは男性のみの場に女性の視点がしっかり入っていくこと、そこからあらゆる少数者の視点が入ることで、様々なリスクに備えた予測ができると思います。

津島：あらゆる視点を持つ方々が声をあげることができる世の中でありたいですね。

第12回

多様性について 考える

R6.05放送

天草：今回は、番組のタイトルにもある「多様性」について考えていけたらと思います。

津島：番組放送から約1年ということで、はじめに立ち返って考えてみましょう。

天草：まず、多様性という言葉聞いて悪いイメージを持つ人はあまりいないのではないのでしょうか。差別はいけないということにも、多くの人が共感していると思います。

津島：そうですね。

天草：でも実際に、人権問題に積極的に取り組む人がいるかと言われると、決して多くはありません。

津島：実際に取り組むとなると、ちょっと重い感じがします。

天草：皆良いことだと頭では分かっているけど、なぜか行動に移す人は少ないですね。

津島：かなり勇気がいりますし、術がわからないという人もいるのかも？

天草：多様性を意識するって、実はかなり体力を消耗するんです。多様性に向き合おうとすればするほど、疲れが出てしまうものなんですね。

津島：なんとなくわかる気がします。

天草：ほとんどの人が肯定はしつつも、それより踏み込むことに遠慮がちになってしまいます。

津島：なぜ多様性を意識すると疲れるのでしょうか？

天草：それは、常に自分とは違う考え方や価値観に直面し続けなければならないからです。人って基本的に合理的で効率的なものを好む傾向にあって、その方がわかりやすいし、ストレスにならないんです。

津島：なるほどそうですね。

天草：でも多様性はそれと真逆で、複雑で大量な情報をそのまま捉える力が必要になります。

津島：確かに難しいですね。

天草：だから知識や経験が必要になるし、柔軟に受け入れるには、ある程度精神的な成熟さも必要になります。

津島：腑に落ちる点があります。

天草：また、選択肢を増やすと自由に選べるメリットがありますが、その選択肢を用意する側に負担がかかります。例えば、もしテストが筆記試験だけでなく、レポートやプレゼン形式でも評価されるとなったら、それまで気づけなかった生徒の強みを発見できるかもしれません。一方で、それを評価する先生の負担は何倍にも増えてしまうことになります。

津島：そういうことなんですね。

天草：多様性を実現するには、それに割けるだけの時間や経済的余裕、人的リソースといった環境面が整っていなければ、負担を強いるものになりかねません。

津島：そうした側面があったとは...

天草：これを聞くと、ちょっと大変だなと思うかもしれません。

津島：はい...実は思っていました。

天草：たしかに大変ですが、私はそれ以上に、多様性について学ぶことの楽しさや魅力を感じています。

津島：あ、なんだか光が射してきました！

天草：多様性と聞くと、「現実にある差別問題を直視すべき」と固く捉えてしまう人もいます。そうではなくて、単に新しい知識として自分とは違う他者について知ること自体が、私は面白いことだと思っています。

津島：なるほど、その視点大切ですね。

天草：知ることによって自分の中の知的好奇心を満たしたり、自分の人生を豊かにする経験だと捉えるようにしています。

津島：知ることによって人として豊かになれる、そう捉えると気持ちが楽になりますね。

天草：私もジェンダー問題について学び始めた頃は、何が良く何がだめで、何が傷付けてしまうのかわからない状態でした。綺麗な答えの出ないテーマだからこそ、わからないという感覚がむしろ正常な反応だったのかもしれません。

津島：それを聞いて少し安心しました。

天草：楽に解決できる問題じゃないからこそ、自分なりの答えを探すしかありません。肩の力を抜いて多様性を楽しんでもらえたらと思います。

津島：多様性を楽しむ、良い言葉ですね。

第13回

R6.06放送

プライド月間

～おすすめメディア特集～

天草：今回は、「プライド月間～LGBTQに関するメディア特集～」と題してお送りしたいと思います。

津島：まずプライド月間について教えてください。

天草：プライド月間とは、LGBTQにとって歴史的な出来事である「ストーンウォールの反乱」が起こった日にちなんだ啓発月間のことです。

津島：どのような出来事だったんですか？

天草：1969年6月、ニューヨークのとあるゲイバーが警察による不当な立入調査を受けた際、その場にいた当事者が真っ向から抵抗し、抗議した事件のことです。その店名から、のちにストーンウォールの反乱と呼ばれるようになりました。

津島：プライド月間にはどのようなことが行われますか？

天草：世界各地でLGBTQの権利を啓発するイベントなどが行われます。そこで今回は、LGBTQに関するメディア作品をご紹介します。

津島：どんな作品があるのでしょうか？

天草：一つ目は、「きのう何食べた？」です。

津島：知っています！人気ドラマですよ。

天草：よしながふみさんの漫画が原作で、2019年に西島秀俊さんが主人公を演じてテレビドラマ化、2021年には実写映画化もされている作品です。

津島：話題になりましたよね。

天草：弁護士と美容師のゲイカップルが同棲する日常を描いた物語なのですが、料理シーンが丁寧に描かれていて、“漫画飯”としても楽しめます。

津島：友人も、料理が参考になると言っていました。

天草：ありふれた日常の中に、同性カップル特有の悩みや困難に直面する描写もあり、普段LGBTQを題材にした作品を観ないという方でも抵抗なく観られます。

津島：改めて観たくなりました。それでは続いては？

天草：二つ目は「カランコエの花」です。

津島：どんな作品ですか？

天草：2018年公開の日本映画です。今田美桜さん演じる高校生のクラスで、「LGBTについて」という授業が行われたことをきっかけに、生徒達の間で当事者探しが始まります。

津島：なんだか現実で起こりうるような話ですね。

天草：当事者でない周囲の人の視点で描かれているのが特徴的で、高校生という揺らぎのある年代と、学校という閉鎖的な空間の中でのやり取りがとてもリアルです。

津島：この作品も気になりますね。続いては？

天草：アメリカ映画から、実話を基に製作された「チョコレートドーナツ」という映画です。

津島：実話なんですね。

天草：2020年に日本でも舞台化され、東山紀之さんが主演を務めました。

津島：へえ～舞台でも！どんなお話ですか？

天草：歌手を夢見るゲイパフォーマーが隣人のダウン症の少年を引き取り、養育者として同性パートナーと共に育てようとする物語です。マイノリティに対する周囲の無理解など、辛い現実が突き刺さる作品です。

津島：続いては？

天草：実話を基に製作された、「パレードへようこそ」というイギリス映画です。同性愛の活動家達が、炭鉱労働者の人々を支援しようと奮闘する物語です。寄付先となった炭鉱夫の人々は、当初活動家達に否定的な態度でしたが、徐々に打ち解けていきます。

津島：それは良かった！

天草：境遇は違えど、困難な状況に苦しむ者同士が協力するストーリーに、心が温まります。

津島：互いに協力しあう物語なのですね。

天草：こうした作品に触れて、理解に繋がってほしいです。

津島：最近はドラマでも、登場人物に多様な要素が取り入れられたものが多いですね。メディアを通じて、マイノリティが当たり前前に暮らせる世の中が、より啓発されていると思います。

第14回

LGBTQの歴史

R6.07放送

天草：今回は、LGBTQに関する歴史に触れたいと思います。

津島：同性愛はかなり昔から...古代からあったのでは？

天草：同性愛は大昔から存在していたと考える人もいますが、実は人々が同性同士の親密な関係性は同性愛だと概念として認識したのは、つい最近のことなんです。

津島：最近のことなんだ！

天草：それまでは、同性愛のような関係があったとしても、それは「一過性のもの」と捉えられていたり、「異性に対してだらしがない人が同性に対しても手を出してしまう」と考えられたりしていました。

津島：そうだったんですね。

天草：人は皆、異性に好意を持つものだという考えが前提としてあるために、同性愛をありのまま捉えることができていなかったんですね。

津島：まさに概念がなかったということですね。

天草：海外では宗教の教えに則り、生殖に結び付かない行為は自然に反するもので宗教上の罪であるとして、ソドミー法と呼ばれる法律が存在し、同性愛も懲罰の対象になっていました。

津島：それは驚きです。

天草：現在でも、同性愛を犯罪とする国は存在します。

津島：これだけ世界的に認知されてきていても、まだ犯罪になってしまうような国があるなんてショックです。

天草：また、同性愛は治すべき病気であると捉え、宗教面でも医療面でも“治療の対象”とされていた時期もあります。犯罪として罰せられるよりは、幾分マシな考えだったのかもしれませんが、その治療法も非人道的で残酷なものでした。

天草：今はWHOからも病気の分類からは外されています。

津島：そうだったんですか…。

天草：ちなみにトランスジェンダーの概念は同性愛よりも後に誕生します。

津島：そうなんですね。

天草：歴史上、トランスジェンダーは同性愛の一部であると考えられていた時期もあるので、その存在が今ほどはっきりと区別されていませんでした。

津島：今でも混在して捉えている人は多いですね。

天草：注目したいのが、こうした歴史の中で女性の性的マイノリティの存在が、男性に比べて透明化されていたということです。

津島：どういうことですか？

天草：ここで言う女性は生まれが女性という意味で使用しますが、現在でも男性同士の親密な関係は問題視されやすいのに対して、女性同士はなぜか仲の良い二人とか微笑ましい程度にしか捉えられなかったり、戸籍上の女性が男性的な見た目や表現をしても、ボーイッシュとかおしゃれに興味のない人という印象を持たれたりするなど、明らかに男性に対する目線とは異なっています。

津島：女性同士だと違和感なく捉えられていることが多いように感じますね。

天草：どちらが良いということではありませんが、LGBTQと一括りで考えるのではなく、性のあり方一つ一つにフォーカスして困難や悩みを分析するというのも、よりの確に彼らを理解するには必要なことです。

津島：性のあり方はそれぞれ、まさに千差万別と思っておくと良いですね。

天草：このような概念や言葉が生まれ、人々に流通していったのは、世界的に見てもここ100年ほどであり、その認識も完全に正しく認識されているわけではありません。

津島：まだまだ途上にあるということですね。

天草：特に日本においては、LGBTQという言葉自体ここ5~10年の間に浸透してきたので、急な概念に戸惑いや混乱を持つ人も多くいます。

津島：本当にまだLGBTQという言葉の歴史が浅いということですね。

天草：だからこそ安易な憶測や膨大な情報に惑わされることなく、的確に当事者のことを知ってもらえるよう、今後も発信を続けていきたいと思います。

津島：はい、よろしくお願ひします。

第15回

R6.08放送

微細な攻撃

～マイクロアグレッション～

天草：今回は、「マイクロアグレッション」についてお話したいと思います。

津島：初めて聞く言葉です。

天草：マイクロアグレッションについて説明する前に、アンコンシャスバイアスという言葉をご存じですか？

津島：いいえ。こちらも初めて聞く言葉です。

天草：日本語で「無意識の偏見」と言い、本人が無意識のうちに持ってしまっている差別的な考えのことです。

津島：無意識というところが怖いですね。

天草：例えば、「女子は数字が苦手」という考えに対し「自分はそう思わない」と思っているも、実際に女の子の成績が悪いとつい「女の子だから仕方がない」と考えてしまうといったことです。

津島：そういえば、数学が得意な知人が「女子なのに数字が得意なのは珍しい」と言われてしまうと嘆いていました。

天草：そうした考えが言動として出てしまうと、その知人の女性のように、誰かが傷付く原因となるかもしれません。

津島：従来ではありがちな考えですね。

天草：マイクロアグレッションとは、まさにそうした「無意識の偏見」が表面化することで、周囲が不快な思いをする言動のことです。

津島：気づかないうちに偏見が植え付けられているかもしれませんね。

天草：気に留めるほどではない言動でも繰り返し言われてしまうと、言われた側にとってストレスやプレッシャーに繋がる場合があります。

津島：自分でもそうだと思ひ込んじゅうこともありそうですね。

天草：こうした性質は、しばしば蚊に刺されに例えられます。蚊に刺されは一度刺されただけでは大して気にならないですが、一度に何か所も刺されたり同じ所に何度も刺されたりすると、辛いですよね。

津島：私も一度に大量に刺されて病院に行ったことがありました！

天草：マイクロアグレッションも同様、本人は気にしていないつもりでも知らないうちに痛みになってしまっているかもしれません。

津島：なかなか難しい問題ですね。でもどうやって自覚することができるんでしょう？

天草：内閣府のHPでは、無意識の思い込みを計るチェックシートが公開されています。

津島：自分の無意識の思い込み、知ってみたいです。

天草：とはいえ、真の無意識の思い込みは、チェックシートでは計れません。

津島：あらら、そうなんですね。

天草：「はい」か「いいえ」で答える調査では、本音よりもつい社会的に望ましい回答をしてしまうことがあります。本当の意味で自分の思い込みに気付くことはできませんが、「自分もこういう発言をしてしまっていたな」と知るきっかけにはなると思います。

津島：では、そうした言動をしないために気を付けるべきことは？

天草：一つは、余計なお世話になっていないか。「そろそろ結婚したら？」のように、本来その人の意思で自由に決められることを、他者に強制しないようにしましょう。

津島：こういう場面は周りでもよく見聞きします。

天草：もう一つは、優劣をつけていないか。「既婚者は幸せで独身はかわいそう」など、良い・悪いという価値観で判断してしまうとマイクロアグレッションに繋がりがやすくなります。

津島：そうなんですね。

天草：どんな生き方が幸せかは本人が決めることで、それによる優劣も存在しません。性のあり方や障害の有無、出身地など、様々な個性や違いについて無意識に優劣をつけてしまっていないか、この機会に振り返ってみてください。

津島：あらゆる側面から振り返るのは、良いことですね。

天草：思い込みや偏見は誰もが持つもので、自分で気づくのはなかなか難しいです。他人から指摘されて初めて気づくことも多いので、お互いに指摘し合える環境や仲間がいると、意識しやすくなると思います。

津島：指摘されたら、意固地にならず、まずは意見に耳を傾けることから、ですね。

第16回

R6.09放送

みんなちがって みんないい (前編)

津島：ゲストにお越しいただいています。

村松：島田図書館の村松です。図書館だよりや新刊案内の作成、児童書や児童向けのイベントなどを担当しています。よろしくをお願いします！

津島：では天草さん、今回はどのようなテーマでしょうか。

天草：村松さんと今回、「みんなちがってみんないい～LGBTQについて考えよう～」と題して、図書の中でも多様な性や自分らしさについて触れている作品をご紹介しますと思います。

津島：今回のテーマについて、近くイベントが行われるとのことですが？

村松：島田図書館では、LGBTQをテーマにした児童書の展示を開催します。

津島：なぜこの展示を企画しよ

うと思ったんでしょう？

村松：きっかけは、静岡県で2023年からパートナーシップ宣誓制度を導入したことだと聞いています。仲間の職員は、ジェンダーについてなかなか話題にしづらかった時代に、表に出せなかった当事者もいたのではないかという思いもあったそうです。

津島：たしかに私もそんなふう感じたことがあります。

村松：そこで以前、天草さんが職員向けに開催したLGBTQ研修に参加したのをきっかけに、今回の企画に協力してもらいたいと思ったんです。今回天草さんにおすすめ本を10冊選んでもらい、コメント付きでその本を展示したいと考えています。

津島：天草さんはおすすめ本を選んでみてどうでしたか？

天草：村松さんから事前に候補をもらっていたんですが、候補の中には知らない本もいくつかあったので、実際に読みに行きました。小さなお子さんでも読めるような絵本というのもたくさんあって、読んでみると、自分らしさに悩んで試行錯誤するお話や、まったく教訓じみたような内容じゃないのに、どこか大人になった自分が読むと刺さるようなメッセージが隠されているお話など、とにかく絵本ってこんなに面白くて学びのあるものなんだなと感銘を受けました。週末は子どもたちに交じって、児童書コーナーでたくさんの絵本を読みに行っています。

津島：たしかに絵本って、大人になるとなかなか読む機会がなくなってしまいますが、改めて読んでみるといろんな発見があるのかもしれないですね。村松さんは、天草さんのお話を聞いていかがですか？

村松：絵本の世界観とか言葉って、大人になってから読んでみてもじんわり、ときには直球で届く力を持っていると私も思っています。子どもたちの心や世界って、とても柔軟で率直で正直ですよ。実は、LGBTQに繋がっていきそうな絵本を探していたときに、たまたま読んでみたら何の前触れもなく、“主人公の子供の親がママ二人”という絵本に出会ったんです。

津島：それは本当に興味深いですね。

村松：このような絵本を読むことで、読んだ子どもたちは“二人ともママ、パパ”という家庭も、当たり前のこととして受け入れていくんだろうなと思いました。

津島：たしかに。

村松：そういう児童書の魅力も、親御さんなど大人の方にも再発見してもらえたら嬉しいですね。

津島：子どもの頃からそうした絵本を読むことによって、あらゆるものが自然に受け入れられるようになるのではないかなと私も感じます。大人もきっと気づきがありそうですね。

今回の企画を通して関連図書を読む人が増えるきっかけになるといいなと思います。



第17回

R6.10放送

みんなちがって みんないい（後編）

天草：今回は、図書館課の村松さんと一緒に、図書館にあるLGBTQなど多様性に関連した児童書の中から、おすすめの3冊を紹介したいと思います。

津島：どんな作品があるのでしょうか？さっそくおすすめをお願いします。

村松：1冊目は、「タンタンタンゴはパパふたり」です。とある動物園にいる2羽の雄ペンギン、ロイとシロがカップルになり、卵を交代で温めてパパになるというお話です。この本は、2024年度から島田市子ども読書100選の小学校中学年向けに選ばれています。

天草：登場人物みんなが優しい心を持った温かいお話だと思いました。実話だという点もポイントです。かわいい動物たちがたくさん出てくるので、まだ多様な性のあり方についてピンと

来ない小さなお子さんでも、十分楽しめると思います。

村松：私は、2羽の様子を見た飼育員が「この子たちはきっと愛し合ってるんだ」と思って、卵を与えたところに温かさを感じました。ところがこの本は、2005年の出版当初には批判を受けていました。

津島：そうなんですか！？

村松：アメリカの最も批判を受けた図書ランキングで3年連続1位になっており、子どもに読ませたくない本として話題になっていたそうです。しかし現在では、日本での販売部数は2万4500部を超えました。

天草：ロイとシロのお話は実話なのに、それが批判を受けるとするのは悲しいことですね。

村松：いつか日本でも多様な家族のあり方が当たり前になるといいと思います。

津島：続いてはどんな本でしょうか？

村松：2冊目は、「だがし屋のおっちゃんは おばちゃんなのか？」です。かなりインパクトのある題名ですよ？

天草：子どもならではの純粹で素朴な疑問を表現しているようで、インパクトのあるタイトルだと思います。絵柄もユーモア満載ですごく面白いです。でもユーモアの中に、意外な展開やジーンとくる内容が盛り込まれていて、ギャップが印象的でした。

津島：そうだったんですね～。

天草：この本の、お気に入りのセリフを紹介します。「男やから男らしくとか、女やから女らしくとか、周りを気にして無理することより、自分らしく生きていくことが大事だと思う」。おっちゃん言うとおり、自分が一番自分の理解者であるべきだなと思いました。

村松：私が印象深かったシーンは、おっちゃんが中学生のときに周りにカミングアウトした際、「あんたはあんたなんやろ」と受け入れられたところです。

津島：「自分らしく生きていくことが大事」というおっちゃんの言葉は、きっと多くの読者の心に響くことでしょうか。続いては？

村松：3冊目は「兄の名は、ジェシカ」です。この本は2021年度読書感想文全国コンクールの課題図書高校生部門に指定されました。

天草：この本の見どころは、LGBTQを取り巻く困難や課題を、当事者ではなくその家族の立場から描いた作品であるということです。ジェイソンの弟サム視点で、両親や学校のクラスメイト達のジェイソンに対する反応や言動が、丁寧に描かれています。

村松：両親やサムは、なかなかジェイソンのカミングアウトを受け止めきれず、ジェイソンに対し酷いことをしてしまいます。物語の結末は、ぜひ実際に読んでみて、この家族の行く末を見届けてみてください。

津島：天草さんは、今回おすすめ本を選んでみていかがでしたか？

天草：私は普段勉強のためにLGBTQに関する研究や本を読むことはありますが、そうした調査研究などと違って、児童書には自分で気づく発見がある点が面白かったです。登場人物の感情や会話の中で、自分ならではの解釈ができるというのが、物語の魅力だと感じました。皆さんもぜひ図書館に立ち寄って、気に入った作品に出会ってみてください。

第18回

R6.11放送

性同一性障害 特例法について

天草：今回は、性同一性障害特例法についてお話したいと思います。

津島：性同一性障害について改めて教えてください。

天草：出生時に割り当てられた性別と性自認が異なっている人を「トランスジェンダー」と言います。なかには、出生時に割り当てられた性のまま生きていくことに強い苦痛を感じたり、社会生活を送ることが困難な人もいたりします。

津島：聞いたことがあります。本当に辛いですね。

天草：性同一性障害というのは、こうした状態について医学的なサポートを必要とする際に、医師から診断される診断名のことを言います。

津島：そうでした。

天草：WHO(世界保健機構)では

以前は性同一性障害は精神疾患の分類でしたが、現在はその分類からは外されています。名称も「性別不合」に変更されています。

津島：そうだったんですね。

天草：ただ日本では、法律の中にその名称が記載されているため、現在も性同一性障害という言葉が使われています。

津島：なるほど。法律に記載されているからなんですね。

天草：日本では2003年に性同一性障害者の性別の取り扱いの特例に関する法律(特例法)が成立していて、戸籍上の性別を変更できるようになっています。

津島：20年前に戸籍上の性別を変更できるようになっていたんですね。

天草：この法律には、次の要件が定められています。

天草：一、18歳以上であること。
二、現に婚姻をしていないこと。
三、現に未成年の子がいないこと。

四、生殖腺がないことまたは生殖腺の機能を永続的に欠く状態であること。

五、その身体について他の性別に関わる身体の性器に関わる部分に近似する外観を備えていること。このすべての要件を満たさなくてはなりません。

津島：いろいろあって難しそう。

天草：国内で性同一性障害と診断できる医療機関が限られているので、遠方まで受診に行く必要のある人もいます。

津島：それも負担になりますね。

天草：また、ホルモン治療や性別適合手術は身体的なリスクを伴いますし、費用も高額なため、健康上の理由や経済的な理由等で治療が受けられない人もいます。

津島：そうするとさらに険しい道ですね。

天草：要件の4,5は性別適合手術が必要な要件になりますが、WHOなどの国連機関は性別変更の条件として不妊手術を義務付けることを止めるよう勧告しています。

津島：リスクがあると、本当に心配ですからね。

天草：しかしこの要件の一部が、最近撤廃されました。2023年10月に最高裁が性別変更のために生殖能力をなくす手術を受ける要件(生殖不能要件)を「違憲」とする判断を下したのです。

津島：それってどういうこと？

天草：これまで性別適合手術が受けたくても受けられなかった人たちが、性別変更できる可能性が広まりました。一方で、外観要件についてはその判断が見送られています。

津島：見送られた...？

天草：生殖不能要件が撤廃されても、結局近似する外観を備えるための手術はせざるを得ない人がいるということです。

津島：結局は手術ありきということですね。

天草：外観要件においては、特に男性から女性に性別変更をする場合に手術が必要になることが多いです。

津島：性別を変更することは、困難を極めるといことなんですね。

天草：これまでに国内で戸籍上の性別を変更した人数は一万人を超えています。そして今後も、現行の法律が変わる可能性は十分にあると思います。

津島：法律は変わっていくものですよね。たとえ時間がかかったとしても。

天草：法律が変化することで、様々な憶測が飛び交うリスクも出てくるかもしれません。私たちができることは、できるだけその背景に目を向けて知る努力をすることだと思います。

第19回

R6.12放送

LGBTQに対する 企業の取組

天草：今回は、LGBTQに対する企業の取組についてお話したいと思います。取組は、大きく中に向けたものと外に向けたものに分かれます。

津島：中と外とあるんですね。

天草：当事者が従業員として働きやすくなる取組、顧客として、企業が提供する商品やサービスを利用しやすくするための取組という分け方です。

津島：なるほど。

天草：その関係性は、従業員本人やその家族が当事者である場合、顧客が当事者である場合、取引先や株主が当事者の場合など、関係するあらゆる人が当事者の可能性があります。

津島：そうですね。その可能性は十分にあります。

天草：取組をしないことで、本来雇用対象となるはずの貴重な人材を逃してしまったり、

サービスや商品が当事者を想定していないために機会損失をしてしまったりすることがあります。

津島：言われてみればそうですね。でも多くの企業がその視点に気づいていないのでは？

天草：また、LGBTQに対する取組を行っている企業は、「当事者でない人にとっても働きたいと思う人が多い」という調査結果もあります。そうした取組の有無が、企業イメージに直結しています。

津島：企業も無関心ではいられませんね。

天草：以前、D&Iについてお話しましたが、組織に多様性が増すと、企業全体の生産性が向上し、人材不足の解消に繋がると言われています。

津島：そうなんですね。それは良いことですね。

天草：経産省が行った調査では、ダイバーシティ経営を行う中小企業は、そうでない企業より経営成果が良いことが分かっています。一方で、こうした取組は大企業では進んでいます、中小企業ではまだ進んでいません。

津島：確かに、その傾向を感じます。以前ヤマハの展示施設に行った際に、LGBTQに関するハンドブックが配架されていました。

天草：日本の企業の99%が実は中小企業なんです。なのに中小企業が3割しか取組ができていないということは、全体として見るとまだ道半ばな状況です。

津島：まだまだLGBTQに配慮した取組は推進していかなければなりませんね。

天草：実は、静岡大学のLGBTサークル「grandiose」がLGBTQフレンドリーな企業を一覧にした「静岡おまちMAP」を作成しました。

津島：LGBTQにフレンドリーな企業...！

天草：今回はウェディング編ということで、静岡駅周辺のジュエリーショップやブライダル会場などを中心に紹介されています。

津島：ウェディング編ですか、とても興味深いですね。見てみると、ホテルやジュエリーショップが載っています。あとはみんなでパーティーをできるお店とか...。こうしたマップがあると、非常に立ち寄りやすいしわかりやすいですね。

天草：「同性カップルの対応経験があります」という企業もありますね。私も、お店で子連れや障害など多様な人々に配慮している表示を見つけると、嬉しく思うことがあります。

自分にとってその配慮が必要かどうかに関わらず、細かな配慮が行き届いているお店は、信頼に繋がりますね。

津島：私もそう思います。

天草：こうした気持ちは、思っているだけで表現しないと、なかなか当事者には伝わりません。

津島：気持ちを示すっていうのは本当に大事ですね。

天草：だからこそ、お店の規模に関わらず、地域でもそうしたさりげない配慮が可視化されるようになると思います。

津島：目で見てわかる配慮は、安心に繋がりますね。

静岡おまちMAPは
こちらから↓



第20回

R7.01放送

LGBTQのための 居場所づくり(前編)

天草：今回は、ゲストにNPO法人しずおかLGBTQ+の代表理事である細川さんをお招きして、LGBTQやそうかもしれない人のための居場所づくりについてお話ししたいと思います。

細川：こんにちは。NPO法人しずおかLGBTQ+の細川です。しずおかLGBTQ+では、静岡市を中心に居場所事業や相談事業などを行っています。

津島：まずは団体の活動について教えていただけますか？

細川：しずおかLGBTQ+は2013年に任意団体LGBT静岡研究会として発足し、2018年にしずおかLGBTQ+としてNPO法人化しました。私たちの法人は、セクシュアリティを問わず様々な人が運営に関わっていて、当事者団体とも支援団体とも異なる「みんなの団体」をコンセプトに活動しています。

津島：「みんなの団体」と銘打って様々な方が運営に携われるというのは、より開けた感じがしますね。島田市でも、近く交流会が開催されるんですよね？

天草：「いろいろにじいろ交流会」は、県が主催する居場所づくり事業で、県内各地域で定期的に開催されています。NPO法人しずおかLGBTQ+が県からの依頼を受けて、中部地域の交流会を始め、島田市でも去年から共同で開催をしています。

津島：去年開催したようすはいかがでしたか？

天草：島田市では、LGBTQ当事者の居場所交流会の開催は初めてだったんです。それまで市では当事者の方と関わる機会がなかなか無かったので、当日集まった参加者を見て、やはり皆さんこうした居場所を必要としているのだと感じました。

津島：細川さんはいかがですか？
細川：定員を超える人数の方がお越しくださり、私たちも緊張しましたが、和気あいあいとリラックスした居場所になり、とても楽しい時間でした。

津島：それはよかったです。今後開催される交流会では、どのような方が参加できるのでしょうか？

細川：LGBTQやそうかもしれないと感じている方が参加できます。参加には人数制限もなく参加費も無料なので、気軽にお越しください。県内の方ならどなたでもお申込みいただけます。自宅近くの交流会は参加しにくいけれど、島田市まで足を伸ばすなら安心という方もぜひお越しください。

津島：自宅近くでない方が参加しやすいという方もおられるでしょうね。前回、島田市で開催された時にはどのようなことが行われましたか？

細川：フリートークの会でしたが、初対面の皆さんが気軽に話せるよう、話すテーマを書いたトークカードをいくつか用意して、グループトークを行いました。

津島：参加者の方の反応は？

細川：高校生から60代の方まで、20名以上の方がご参加くださり、学校や職場、友達関係のテーマなど、様々な内容で意見交換をしました。参加者からは「いろんな人の話を聞いて良かった」と感想をいただきました。

津島：話すのが苦手という方はどうしたらいいのでしょうか？

細川：この交流会では、話すのが難しいと感じる方はムリに話さなくても大丈夫です。会話をパスする「今は聞くだけカード」を用意してあるので、今回は周りの話を聞くだけという参加のしかたもできます。

津島：話したくない方はムリに話さなくてもいいんですね。はじめは話さず参加だけと思っていた方も、次第に打ち解けたりできるかもしれませんね。

細川：目的は居場所を見つけてもらうことなので、話すことだけが重要ではなく、まずは参加していただければと思います。

津島：気軽にお越しいただくのが一番ですね。



第21回

R7.02放送

LGBTQのための 居場所づくり(後編)

天草：前回に引き続き、NPO法人しずおかLGBTQ+の細川さんをゲストに、居場所づくり事業についてさらに深掘りしていきたいと思います。

細川：よろしくお願ひします。

津島：改めて、「いろいろにいろいろ交流会」とはどんな交流会ですか？

天草：いろいろにいろいろ交流会は、静岡県が主催するLGBTQやそうかもしれない人、アライのための交流会です。

津島：アライというのはLGBTQの活動を支援する人達、理解者、味方という人たちのことでしたね。

天草：今年度は、「いろいろなセクシュアリティの人と話してみよう、聞いてみよう」というテーマで、“LGBTQとそうかもしれない人のための何でも話せる交流会”を企画しています。

津島：毎回テーマも違っていたようですので、何度か参加した方もいらっしゃるでしょうね。

さて、細川さんがしずおかLGBTQ+を立ち上げようと思ったきっかけを教えてください。

細川：学生の頃から当事者の友達がいたので、「人は社会が求める伝統的な男女のあり方に必ずしも当てはまらないのではないか」と感じていました。社会のあり方と人の生き方の違いを興味深いと感じ、いつか同じように感じている人たちと話をする機会を作りたいと思ったのがきっかけです。

津島：お友達のことがきっかけで、多くの人のことを知りたい、わかりたいという方向に繋がっていったんですね。

細川：40代に入ってから、大学の研究と絡める形で市民団体を立ち上げました。

細川：市民団体は一人で立ち上げた小さなものだったのですが、一年もしないうちに多くの人が集まってくれるようになり、社会問題として深く考えるようになりました。相談も届いてましたので、覚悟を決めて法人化しました。

津島：多くの人が集まってくれたということは、求められていた活動なんでしょうね。

細川：私たちの法人は、「みんなの団体」がコンセプトで、LGBTQの当事者も非当事者も集まって活動しています。なので当事者団体とか支援団体というものではありません。

津島：そうなんですね。

細川：法人では、マイノリティが抱える課題は、マイノリティを不可視化したまま作られている社会の制度や規範の結果だと考えています。なので、コンセプトの中心には、セクシュアル“マジョリティ”こそがこの課題の当事者であり、動くべき人々だという考えもあります。

津島：マジョリティこそがこの課題の当事者という言葉にハッとさせられます。では活動を通して新たに感じていることなどはありますか？

細川：居場所事業がもっと増えたらいいなと感じています。セクシュアリティによって話したいテーマが違うことがあるので、テーマを細かく分けて実施したいです。

津島：細分化したニーズに応えていけば、より寄り添うことができますね。

細川：最近は特に、他者に性的な欲求や恋愛感情を抱かない

「アセクシュアル」や、自分を男性・女性という枠組みに当てはめない「ノンバイナリー」、男性と女性の両性が恋愛対象になる「バイセクシュアル」をテーマとした会のニーズを感じています。

天草：私も最近よく聞くんですけど、LGBTのいずれかに当てはまらないセクシュアリティを自認している人の存在も徐々に認知されるようになってきています。

津島：本当にニーズというのは様々なんですね。悩みごとなどを相談することもできるんでしょうか？

細川：悩みを相談したいときには、「にじいろ個別相談」を利用できます。個別で丁寧にお話を伺い、必要な機関にお繋ぎしながら、一緒に解決を模索していきます。

ご利用は静岡市民に限定されています。市外の方は静岡県の「ふじのくにLGBT電話相談」をご利用いただけますので、ぜひご利用ください。

第22回

R7.03放送

男女共同参画啓発 推進員の活動について

天草：今回は、島田市男女共同参画啓発推進員の活動についてお話をしたいと思います。ゲストは啓発推進員の梅田さんと、市民協働課の原田さんです。

津島：まずは啓発推進員の活動について教えてください。

梅田：男女共同参画啓発推進員は、市民に向けて男女共同参画の考え方を広めるために活動しています。男女共同参画と聞くと難しいイメージを持たれるかもしれませんが、生活の様々な場面で、性別に関わらず一人ひとりが尊重され自分らしく活躍できる社会を目指すことを目的としています。

津島：どのくらい活動するのですか？

梅田：任期は2年で、現在は私を含め3名の啓発推進員が活動しています。

津島：では、具体的な取組についても教えてください。

梅田：2024年度の取組として、市民向けセミナー&市内事業者向けセミナーを企画、また市内の企業へ取材を行いました。これらの活動は、男女共同参画情報サイト「しまだばれっと」で発信しています。

津島：「しまだばれっと」について詳しく教えてください。

原田：市民の方に男女共同参画をよりわかりやすく親しんでもらえるよう、専用サイトを作成しました。

津島：サイトの名前の由来は？

原田：2023年まで発行していた男女共同参画啓発情報誌から取りました。様々な色を活かして混ぜ合わせるパレットのように、互いを認め合う社会への願いを込めています。

津島：素敵なお話が込められているのですね。

原田：このサイトは市民の声や視点を取り入れるために、啓発推進員と職員が共同で作成をしています。皆さんの性別に関するお悩みや、自分らしく暮らすために思うことなどについて、解決するためのヒントを探していきます。

津島：どんな内容が掲載されていますか？

原田：皆さんが日々感じることを投稿できる「みんなのつぶやき」コーナーや、啓発推進員によるコラム、市内事業所の取組について取材した「男女共同参画社会づくり宣言事業所紹介」など、日々新たな情報を更新しております。ぜひみなさん「しまだぱれっと」と検索してサイトをご覧ください！

津島：皆さんにもぜひ知ってご覧になっていただきたいですね。ところで、梅田さんはどうして啓発推進員になろうと思ったんですか？

梅田：私は他の啓発推進員に誘われて活動に携わるようになったんですが、当時男女共同参画への関心は全くありませんでした。

しかし、以前発行していた情報誌「パレット」を読んでいたこともあり、なんとなく「面白い話題を取り上げているなあ」と思っていました。

津島：そうだったんですね。

梅田：啓発推進員になってからは、普段、家庭や職場で感じる性差による違和感やモヤっとするようなことも、会議で話し合う中で共感しあえたり、新たな気づきや学びがあったりしています。

津島：実際に活動をしてみて、心境に変化はありましたか？

梅田：普段の生活でも、男女共同参画に関するニュースを意識して観るようになりました。世の中の出来事について考える幅が広がったと思います。

津島：意識するだけでも視野が広がっていきますね。

原田：島田市では、男女共同参画啓発推進員を募集しています。対象は市内・近隣市町に在住または在勤の20歳以上の方、会議中は託児を無料で利用できます。詳しくは島田市市民協働課までお問い合わせください。

しまだぱれっとHPは
こちらから↓



第23回

R7.04放送

「行動する傍観者」 になってみよう

天草：今回は、「行動する傍観者」になってみようというテーマでお話をしたいと思います。

津島：よろしくお願いします。

天草：突然ですが、シマカコさんはこれまで困っている人がいるのに助けてあげられず後悔した経験はありますか？

津島：具体的には覚えてはいませんが、そういうことってあったように思います。

天草：私も何度かそういう経験があって、状況を見過ごしてしまった後はいつも「やっぱり声をかければ…」と頭の中で考えてしまい、後でモヤモヤした気持ちになってしまいます。

津島：どうなったかわからずにモヤモヤする、わかります。

天草：実は、日本は他国に比べて、見知らぬ人を助ける人が少ないというデータがあります。

津島：そうなんですか？！

天草：イギリスの団体による「世界人助け指数2024」という調査で、「この1か月間に見知らぬ人を助けたか」という質問に、日本は世界142か国のうちワースト2位という結果だったんです。

津島：ええ？ワースト2位！？

天草：でも決して日本人が冷たいというわけじゃないですよ。心の中では「大丈夫かな」と思っても、実際どうしたら良いかわからないという方がほとんどだと思います。

津島：たしかに。瞬時に判断できないというのが本音です。

天草：そこで「行動する傍観者」について紹介をしたいと思います。「行動する傍観者」とは、身近で差別等が起きている・起きそうな場面で、何かしらのアクションを起こす第三者のことを言います。

津島：それが「行動する傍観者」…。

天草：なぜ第三者の働きが重要かという、加害者として攻撃してくる人も、その状況を見て見ぬふりをする人も、被害者からすると区別がつかないからなんです。

津島：たしかに区別がつかないかもしれません。

天草：いくら心の中で心配していても、実際に声をかけないとただその問題を黙認してしまい、結果として加害者に加担することになってしまいます。

津島：ではどうしたら良いのでしょうか？

天草：以前、この番組でSOGIハラについて話した際に、4つの対応方法を紹介しました。「行動する傍観者」でも重要なので、おさらいしましょう。

津島：はい、お願いします。

天草：一、その場で制止する

二、報告・通報する

三、その場の空気を換える

四、被害者に寄り添う です。

津島：こうしたことが少しでも念頭にあれば、咄嗟の対応も変わってきそうです。

天草：ただ、いざその状況に直面すると、うまく立ち回れないという人もいるかもしれません。

津島：実際そういうことも多いと思います。

天草：なので、日頃から被害に直面した際のシミュレーションをしておくといいかもしれません。

津島：予行演習、大事です。

天草：被害を受けている本人が自ら声をあげるのは負担が大きいです。LGBTQを取り巻く状況においても、理解者の存在が当事者の心理的安全性を高めます。

津島：追い詰められた時でも、よりどころになり得ますよね。

天草：「行動する傍観者」の行動は、人によっては余計なお世話と思われることもあるかもしれませんが。でもアクションを起こしてみないとわからないですよ。

津島：はい、周りが助けてくれないと辛い経験になってしまいます。

天草：それに直接被害を受けていなくても、被害を見聞きすること自体に苦痛を感じる人もいます。それが職場で起きていることだとしたら、周囲にいる従業員の勤続意欲の低下に繋がるかもしれません。

津島：その場にいることが嫌になってしまう場合もありますよね。

天草：だからこそ、そんな場面に直面した時には見過ごさずに、小さくてもいいのでアクションを起こしてみたいと思います。些細なことから「行動する傍観者」を目指してみてください。

第24回

R7.05放送

ステレオタイプと どう向き合うか

天草：今回は、ステレオタイプとどう向き合うかについて、考えていきたいと思います。

津島：早速ですが、ステレオタイプとはどんな意味でしょう？

天草：例えば「リーダーには男性が向いている」のように、それが正しいかどうかに関わらず、多くの人が思い込んでしまっている固定観念のことです。

津島：思い込んだ固定観念…。

天草：それからアンコンシャス・バイアスという言葉もあります。これは「無意識の偏見」と呼ばれ、本人も無意識のうちに持ってしまっている固定観念のことです。

津島：これはなんかありそうですね。

天草：「リーダーには男性の方が向いていると思いますか？」という質問に「いいえ」と答えた人が、無意識のうちに「リー

ダーは男性になった方が良い」と考えてしまうこと等です。

津島：なんだかありがちです。

天草：こうした考えが実際に表面化してしまうと、ハラスメントに繋がる恐れもあります。

津島：無意識にハラスメントに繋がってしまうんですね。

どうしたらいいんでしょう？

天草：ステレオタイプも悪いことばかりではなく、時と場合によることが多いです。ステレオタイプは多くの事象に対して傾向を掴み、単純化する処理のことで、膨大な情報を処理する人間の脳にとっては、重要な要素なんです。

津島：重要なんですね。

天草：ビジネスの場面では、単純化(simple)、標準化(standard)、専門化(special)の「合理化の3S」が重要と言われ、これをするこ

業務の効率化が図れます。

津島：そうなんですね。

天草：ただ、人に関しては、単純化して認識してしまうことは本来不可能です。

津島：どうしたら人のことがもっとわかるようになれるですか？

天草：その人自身についてよりよく知るには、「ありのまま見る力」が必要です。ありのまま見る力が弱いと、その人の一面だけにフォーカスしてしまい、全体像を捉え損ねてしまいます。

津島：表面的なことだけで判断してはいけませんね。

天草：ですから、一つの側面から「こうであるに違いない」と決めてかかるのではなく、個人として見るのが大事です。

津島：個人として見る視点、人それぞれと思うこと、本当に大切ですね。

天草：となると、やはりステレオタイプをなくしたほうがいい気がします。実際のところ、人はステレオタイプを完全になくすことはできません。

津島：難しいのですね。

天草：むしろ「ステレオタイプをなくさなければ」と思考を抑制しようとするほど、却ってその考えが浮かびやすくなってしまいうこともあります。これを「シロクマ効果」と呼びます。

津島：「シロクマ効果」？それなんですか？

天草：「5分間好きなことを考えてください、ただしシロクマのことだけは絶対に考えないでください。」と言われると、抑制された反動でシロクマを思い浮かべてしまう人が多いという現象なんです。

津島：なんかわかります。きっとそうやってしまいますよね。

天草：ですから、「女性を男性より弱い立場と決めつけてはいけない」と言ってしまうと、却って「女性は男性より弱い立場なんだ」という考えになる現象が、男女共同参画でも起こりうると思います。

津島：男女共同参画の場でも、なんですね。

天草：ただ、もしそういった考えを捨てきれなかったとしても、現実には女性で指導的地位に就いている人もいるという事実を直視できる、豊かな認知を持つことができると良いと思います。

津島：事実ですからね。

天草：要は、単純化して物事を見てしまうこと自体を否定するのではなく、複雑なものを複雑なままに捉える力を養うことが重要なのだと思います。

津島：人間はみんな違って複雑で良い、そういうことを忘れずにいたいと思います。

第25回

R7.06放送

「性的同意」について

天草：今回は、「性的同意」というテーマについて、お話したいと思います。

津島：性的同意、聞いたことがあります。

天草：性的同意は、性的な行為に対して、その行為を積極的にしたいと望むお互いの意思を確認することを言います。

津島：意思確認なのですね。

天草：以前、島田市の職場内グループ「しま×にじ」でこのテーマについて話し合ったとき、日常のいろんな場面に関わる大事なことだと実感したんです。

津島：日常のいろいろな場面に関わること？

天草：性教育は、単に性や生殖に関する知識を学ぶことだけが目的ではなく、人と人との関係やコミュニケーションの問題、自他を尊重する思いやりの話だからです。

津島：表層的な知識ではなく、もっと奥深い教育なのかもしれませんね。

天草：自分の意見や考えをはっきり伝えられるかは、その人の生まれ育ってきた社会や文化、コミュニティに影響されます。

津島：人それぞれ背景がありますからね。

天草：日本人はよく主張をしないとわれがちです。特に性的なこととなると、言葉にせずともわかってほしいという人も多いかもしれません。

津島：たしかに。海外よりもそういう傾向が強いと思います。

天草：内閣府は、同意のない性的な行為は性暴力であり、重大な人権侵害だとしています。

津島：法律も変わりましたね。

天草：文化を言い訳にせずきちんとお互いの同意を確認しあうことが大切です。

津島：勝手な解釈をせず、都度確認することが大事ですね。

天草：些細なこと(手をつなぐ、ハグをするなど)でも必要なことだと思います。

津島：こういうことを、性教育として早い段階で伝えていくべきですね。

天草：以前、「しま×にじ」で話した際には、性的同意のことを「お茶を淹れること」に例えた動画をご紹介します。

津島：どういふものですか？

天草：「お茶をいらないと言っている人に無理やり飲ませちゃだめ」、「以前お茶したいと言った人が、今お茶を飲みたいかはわからない」、「お茶を淹れている間に気分が変わることもある」というものです。

津島：わかりやすいですね！

天草：でも、日常生活においては「断ったら嫌われてしまうのでは」と考えて、ついつい言いたいことを飲み込んでしまうという意見もありました。

津島：雰囲気壊すのが怖くて自分の意思を伝えることを我慢してしまうことありますよね。

天草：性的同意の本質はコミュニケーションだという話をしましたが、ここで、コミュニケーションにおける3つの自己表現のタイプをご紹介します。

自分はどのタイプか想像してみてください。

津島：お願いします。

天草：一、「非主張的自己表現」自分の考えや気持ちを言わずに、自分を抑えてしまう自己表現です。

二、「攻撃的自己表現」

自分の言い分を相手に押し付けたり、言いつばなしにしたりする自己表現です。

三、「アサーティブな自己表現」2つの自己表現の間。自分も相手も大切にしたい自己表現です。

津島：ふむふむ。

天草：コミュニケーションの理想は、「アサーティブな自己表現」です。アサーティブは「積極的な」とか「自己表現する」という意味で、自分の意見や要望を、相手を尊重しながら伝える表現です。

津島：相手を尊重しながら伝える、ですね。

天草：でも実際、自分が非主張的自己表現タイプだと思う人も多いんじゃないでしょうか。

津島：真っ先に「あ、これ私だ！」と思いました。

天草：まずは「自分は尊重されるべき人間だ」という自己肯定感を持つことが、対等な関係で人と接するのに重要です。

津島：自己肯定感ですね。

天草：これは性的同意の場面以外にも通じると思います。

津島：それが自他を認めるバランスに繋がっていくのですね。

第26回

防災と 男女共同参画

R7.07放送

天草：今回は、防災と男女共同参画というテーマでお話したいと思います。

津島：よろしくお願いします。

天草：自然災害の被害の大きさは、地震や津波等の自然現象(自然要因)と、それを受け止める社会のあり方(社会的要因)によって決まります。

自然災害は、自然要因そのものをコントロールすることはできません。でも社会的要因への対策次第では、災害時の困難を最小限に抑えることができます。

津島：なるほど。社会的要因への対策が必要なのですね。

天草：それでは今からクイズを出題します。第1問

『阪神・淡路大震災で亡くなった方は、男女どちらが多い？』

津島：えー、同じくらい？

天草：正解は、女性の方が男性より約1.4倍多かったんです。

津島：なんと...！

天草：内閣府によると、阪神・淡路大震災での兵庫県における死者数は、女性が3,680人、男性が2,713人です。

津島：そんなに違うんですね。

天草：第2問 『東日本大震災の後で、飲酒量は男女どちらがより増加した？』

津島：やはり男性かな？

天草：その通り。男性の方が飲酒量が増加しています。

津島：そうなんですね。

天草：内閣府によると、飲酒量の増加率は、岩手県陸前高田市、宮城県石巻市ともに女性は3%増、男性は7%～12%増という結果でした。震災前後の成人の飲酒量の変化は、被災地全体としてはあまり変化がありませんでしたが、増加した地域に着目してみると、男性の方が高くなっています。

津島：震災後のやりきれなさなどが飲酒増加に繋がったのかな。

天草：第3問 『東日本大震災の後で、睡眠障害が疑われた割合は男女どちらが多い？』

津島：どっちでしょうか...？

天草：正解は、女性の方がより多い結果でした。内閣府によると、睡眠障害が強く疑われた方は、岩手県陸前高田市では女性が44%、男性が27%。宮城県石巻市では、女性が50%、男性が32%という結果でした。

津島：様々なショックで、睡眠に影響が出ることが多いのですね。

天草：このように災害時の影響を性別で分析すると、様々な違いが見えてきます。また震災後には、生理用品などの女性用品のほか、粉ミルクや小児用おむつ等の乳幼児用品について、女性からの要望が多くなっていました。

津島：当事者でないとわからないことってありますよね。

天草：また、哺乳瓶などの備蓄品があっても、お湯や消毒剤がないために使用できないケースもありました。

津島：災害対策には、本当に多くの視点が必要ですね。

天草：それに被災地では、女性や子どもに対する暴力が増加する傾向にあります。また女性は、非正規雇用の割合が高いために、被災時に雇い止めに遭いやすく、世帯収入が減少することがあります。

津島：まさに社会的要因に対する対策が必要ですね。

天草：でも被災時は誰もが過酷な環境に置かれるので、「皆大変なんだから我慢しなきゃ」、「自分の問題は大了たことない」と思い込んでしまう傾向にあります。

津島：たしかにわかる気がします。

天草：特に高齢男性中心の避難所運営の中では、女性や若者は声を挙げづらく、なかなか問題が解決しないことがあります。

津島：それは困りますよね。ストレスも溜まってしまいます。

天草：だからこそ、声を挙げやすい環境を作ること、誰もが主体的な担い手として防災や復興に取り組んでいきたいですね。

津島：はい。それが災害に強い社会づくりだということがわかりました。

天草：本日のお話は、内閣府HP「災害対応力を強化する女性の視点」をご参照ください。

津島：いざというときのために読んでおこうと思います。

第27回

R7.08放送

リプロってなあに ～自分の身体は自分のもの～

天草：今回は、「リプロ」ってなあに～自分の身体は自分のもの～というテーマでお話したいと思います。

津島：リプロってなんですか？

天草：リプロは、1994年に開催された国際人口開発会議で提唱された概念で、正しくは「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(SRHR)」といます。「性と生殖に関する健康と権利」ともいいます。

津島：へえ～。

天草：リプロは、性のことや子どもを産むことに関わる全てにおいて、誰からも強要されることなく、自分の意思が尊重されて、自分の身体のことを自分で決められることをいいます。

津島：なるほど。

天草：リプロには子どもを産むか産まないか、何人産み育てるか、望まない妊娠や性感染症の

保護など、人間のウェルビーイングの重要な一部が概念として含まれています。これをリプロダクティブ・ヘルス(生殖に関する健康)といます。

またリプロは、性的自己決定力、つまり自分の身体に関することを自分自身で決められる権利に関する概念というのも含まれています。これをリプロダクティブ・ライツ(生殖に関する権利)をいいます。

津島：自分の身体のことを自分で決められる権利なのですね。

天草：リプロというと、妊娠や出産に関わることだけが語られると思われたり、女性だけが関係ある話を思われたりしがちです。しかし、男性も決して無関係ではありません。

津島：そうですね。

天草：例えば子宮頸がんという病気があります。

天草：実は子宮頸がんは男性が関与することで女性が罹る病気なんです。

津島：ええ？それってどういうことですか？！

天草：子宮頸がんは、ウイルスの感染がきっかけで起こるがんの一種なんです。性経験のある女性であれば、50%以上が生涯で一度はそのウイルスに感染します。

津島：えっ！そうなんですか？

天草：子宮頸がんは年間約1万人の女性が罹患し、約3,000人が亡くなる病気です。20歳代から発症する人もいます。30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう方は毎年約1,000人いると言われてい

ます。

津島：そんなに大勢の方が、。天草：だからこそ、若い期間に予防接種を受けておくことでその予防が期待されます。

津島：なるほど。予防や検診、本当に大事ですよ。

天草：しかし全てのワクチンには、効果もありますがリスクもあります。子宮頸がんワクチンに関しても以前、副反応の報告が相次いだことから、国による接種勧奨が中止されたことがありました。

津島：そうだったんですね。

天草：その後、安全性について調査を重ねた結果、現在では接種勧奨を再開しています。

津島：そうなんですか。

天草：こうした背景から、2010年に公費で定期接種が受けられるようになった際には70%以上あった接種率は、2013年に接種勧奨が中止されて以降は1%以下にまで落ちてしまったので、年齢によって接種率が大きく異なっている状況があります。

津島：そんな状況になっていたんですね。

天草：政府は、接種勧奨が中止されていた期間に接種を逃した方のためのキャッチアップ接種を、2024年度まで行っていきました。また3回分の接種が済んでいない方は、2回目、3回目の接種を2025年度末まで公費で接種できます。

津島：知らない方もいらっしゃるかもしれません。

天草：ちなみに日本では男性は全額負担のため、このワクチンを接種する方はほとんどいません。男性自身もワクチンを接種することで、肛門がんや中咽頭がんの予防が期待できますし、女性の子宮頸がんの予防に間接的に貢献することもできます。今後日本でも男女ともに定期接種の対象になれば、より予防の効果が期待できるのではないかと思います。

津島：そうですね。

第28回

R7.09放送

ワーク・ライフ・ バランスについて

川本：今回は、天草に代わって川本が、「ワーク・ライフ・バランス」についてお話しします。市民協働課ではこの度、企業を対象にした意見交換会を実施しました。

津島：どのようなことをなさったのですか？

川本：次の4つをテーマにグループディスカッションを実施しました。

- ①あなたは、今よりもキャリアアップしたいと思いますか
- ②生活の中での「家庭生活・個人の生活」と「仕事」の優先度について
- ③家庭を理由に、これまでに自分らしい働き方を諦めた経験がありますか
- ④今後、事業所(職場)として男女共同参画の視点でどのようなことに取り組んでいくべきと考えますか

津島：ディスカッションしていかがでしたか？

川本：ディスカッションの結果、①では「挑戦できる環境や周囲の理解・評価があり、かつ個人の上昇志向も高い」という意見が一番多い結果でした。

津島：キャリアアップできる環境にあり、目指したいという方が多かったんですね。

川本：②では、理想は「家庭と仕事の両立がしたい」という意見が多く、現実には「家庭または仕事を優先している」という意見が多かったです。

津島：家庭と仕事の両立の難しさが表れているんですね。

その後の取組は？

川本：より多くの意見を伺うため、市民向けのアンケート調査を企画しました。アンケートでは、なんと800件を超える回答を得ることができました！

津島：それはすごい！多くの方々が協力してくださったんですね。

川本：アンケートでは、主に「勤務している職場の雰囲気について」と「回答者自身について」の質問をしました。

津島：へえ～興味ありますね。

川本：「職場の雰囲気」については、「中心的な仕事は男性、補助的な仕事は女性という慣習がある」といった質問には、7割以上が当てはまりませんでした。

津島：古い慣習が無くなりつつあるようですね。

川本：一方、育休や介護休の取得については、女性よりも男性は取得しづらい雰囲気があると思う人が多いようです。

津島：やはりまだそうなんですね、。

川本：また、意見交換会のときと同様に「あなたは、今よりもキャリアアップしたいと思うか」聞きました。意見交換会では、「環境的にも可能で、自身の意欲もある」と答えた方が多かったですが、アンケートでは、「環境的にも不可能で、自身の意欲もない」と答えた方が一番多かったです。

津島：大変さが浮き彫りになりましたね。

川本：静岡県立大学の教授によると、「従来の管理職モデルが、現代の女性にも男性にも、無理だと思わせてしまっているのではないか」とのことです。

津島：時代にマッチしていないと捉えられているのかも。

川本：次に、「生活の中での『家庭生活・個人の生活』と『仕事』の優先度について」では、理想と現実ともに「家庭と仕事を両立する」という意見が多かったですが、それ以外では、理想の方が「家庭を優先」したい人が多く、現実の方が「仕事を優先」している人が多い結果となりました。

津島：理想と現実の違いにより無理をしている人も多いということですね。

川本：今回の調査を通じて、改めて、それぞれがライフステージごとに異なる、家庭と仕事の理想のバランスがあると感じました。

津島：ああ、そうか！ライフステージごとに変わってくるものですよね。

川本：それぞれが理想とするやり方を実現するための環境や、パートナーとの話し合いなど、そういうことが大事なんだと痛感しました。

アンケート調査結果は
こちらから↓



第29回

R7.10放送

「ルッキズム」について

天草：今回は、「ルッキズム」についてお話します。

津島：ルッキズムという言葉、最近よく耳にするのですが、どのような意味なのでしょう？

天草：ルッキズムとは、“見た目”という意味の「Looks」と“〇〇主義”という意味の

「ism」を組み合わせた造語です。ルッキズムは外見を評価の基準として、一部の人が不利益を被る差別のことを指します。

津島：え？差別のことだったんだ？！

天草：海外では外見について不必要に触れない意識が浸透している地域もありますが、日本では十分に浸透しておらず、何気ない会話の中で外見に言及することがしばしばあります。

津島：たしかに！ネット上でも芸能人などに対する辛辣な指摘が散見されますね。

天草：そうした他意の無い発言であっても、受け手からするとコンプレックスに繋がったり、ストレスになったりすることがあるかもしれません。

津島：傷ついているのにその気持ちを抑えなければならない、となるとストレスですね。

天草：また、たとえ誉め言葉のつもり発言でも、ルッキズムにあたることがあります。

外見は他人が容易に触れていいものではないことや、時に相手を傷つけてしまうかもしれないということを、心に留めておいておかねばなりません。

津島：相手にとっては、褒められることがストレスになっている場合もありそうですね。

天草：ルッキズムを助長させるものとして、SNSや広告などが指摘されています。

天草：例えば、外見のよさで「いいね」の数が左右されたり、あるいは、誰かが不祥事を起こした際に、その内容とは全く関係のない見た目に関する誹謗中傷が書き込まれたりすることがあります。

津島：ああ、それを目にするのは嫌な気持ちになりますね。

天草：また、電車のつり革広告や、動画サイトやSNS等で流れてくる広告にも、ダイエットやエステ、脱毛、美容整形などが溢れています。

津島：本当によく目にしますね。。

天草：テレビ番組などでも、無意識のうちに外見的な美しさについて追及され、ルッキズムを助長している場面が多々あります。

津島：たしかに。

天草：こうしたコンテンツは、特に多感な時期の若者の心身に影響を与えます。

津島：若い時期には必要以上に何かに囚われてしまうこともわかる気がします。

天草：こども家庭庁の調査では、「若者の現在の悩みや心配ごとの有無」について、半数以上が容姿に悩みを抱えていることがわかりました。

津島：若い世代はそれほど見た目が気になるお年頃なのですね。

そういえば、ヒットソングの歌詞にも「可愛い」とか「ビジュ」などといったキーワードが多く登場しているようにも感じます。

では、どのように考えていったら良いのでしょうか？

天草：ルッキズムは、自分ではどうしようもできない外見的特徴までもが言及されるという点が問題です。

津島：はい。

天草：もちろん、ルッキズムを否定することが「美しくなりたい」という想いを否定することとイコールにはなりません。

津島：自分を高めようと努力することは良いことですね。

天草：一人一人の「美しくなりたい」という想いは尊重されるべきだとは思いますが、行き過ぎた考えに囚われないように注意が必要です。

津島：そうですね。

天草：私も、学生時代は自分の顔写真を加工するのに躍起になっていたことがあります。

津島：私も、学生時代はなんでそんなに気になっていたのか？今となっては不思議に思うくらいです。

天草：外見を磨くことと同じかそれ以上に、自身の内面を磨くことが大事だと思います。自分のありのままの姿を受け入れ、オンリーワンの個性を磨くことも大事だと思います。

津島：本当にそうですね。

天草：そうやって、自分にも他者にも思いやりを持つことができる人になりたいですね。

津島：はい！私も心しておきたいと思います。

第30回

天草アドバイザー

R7.10放送

天草：今回は、私、天草アドバイザーについてお話します。

津島：まずは天草さんのこれまでの活動について教えてください。

天草：私は2023年の3月に着任し、同年6月からこの番組が開始しました。

津島：着任してすぐだったのですね。

天草：それから、職員の人たちと多様性について話し合う機会があればいいなと思い、4月から職場内グループ「しま×にじ」を開始しました。

津島：いろんな人と情報を共有できるいい機会ですね。

天草：9月には職員向けガイドラインを作成し、それをもとに職員約500人に対して研修を実施しました。

津島：それは大変！でも職員にとって良い機会でしたね。

天草：10月には、志太三市自治会連合会の研修会の中で、性の多様性講座を実施しました。

性の多様性について全く学んだこともない、年代の高い方ばかりだったので、伝え方に工夫が必要でした。

津島：受講者の年代によって受け取り方は様々なのでしょうか。

天草：12月には、県主催のいろいろなじいろ交流会が島田市で行われました。地域で暮らしている当事者の方たちと実際に会って話す貴重な機会となりました。

津島：それはよかったです。

天草：3月には、市民向けに性の多様性理解促進セミナーを開催しました。講師の下山田さんから、同性カップルや、男らしさ・女らしさについてのお話などをご講演いただきました。

津島：2023年度の活動をまとめていただきました。では、翌2024年度は？

天草：2024年度は、出前講座に力を入れました。庁内に向けても、職員相談員や新規採用職員を対象に研修を実施しました。

その他、子育て支援センターや市内小中学校の養護教諭、中学校の生徒及び教職員、企業の従業員向けに研修を実施しました。

津島：お話をする対象が毎回変わりますね。

天草：そして、「トランスジェンダーのリアル」というパネル展示を、市役所のロビーで行いました。市民が多く通りがる場所でこのような展示ができて良い成果になったと思いました。

津島：私も見に行きました。とても印象的な展示でした。

天草：また、島田図書館でLGBTQをテーマとする児童書展示が行われ、そこでおすすめ本の選定とコメントの協力をさせていただきました。

津島：児童書にもLGBTQをテーマとした作品があることをこの時初めて知りました。

天草：この年のセミナーでは、認定NPO法人ReBit様を講師にお招きし、すべての人にとって安心・安全な職場づくりというテーマで講演いただきました。

津島：職場の環境って本当に大事ですよ。それでは2025年度は？

天草：9月には、養護学校の先生と生徒に向けて研修をさせていただきました。また12月には東京で開催するイベントで、島田市の性の多様性に関する取組の事例発表をすることとなっています。

津島：それはすばらしいことです。

天草：2月には、性の多様性理解促進セミナーの開催と、約2週間のパネル展示を予定しています。同性婚訴訟の現状や同性カップルの実態についてなどが知れる機会になっています。

津島：天草さん、ここまで振り返っていかがですか？

天草：これまでの活動の中で、様々な発見や学びがありました。なかにはLGBTQに対する否定的な声や批判をいただくこともありましたが、大半は理解を示してくれる人が多く、こうした地道な活動を通じて少しずつ人々の意識が変化してきているのを実感してきました。

市民協働課では、今後も性の多様性に関する理解促進事業を進めていってまいります。

第31回

ジェンダード・イノベーション

R7.11放送

天草：今回は、ジェンダード・イノベーションから学ぶ性差についてお話したいと思います。

津島：初めて聞く言葉です。

どんな意味なのでしょう？

天草：「性差に基づく」という意味のジェンダードと、「知的創造」や「技術革新」を意味するイノベーションを組み合わせた言葉です。

様々な「性差」に注目し、研究や技術開発のプロセスに積極的に性差分析を組み込んでいくことで、研究に貴重な視点や、新しい方向から研究を進めることが期待できます。

津島：なぜこうした概念が必要なのでしょう？

天草：これまでは研究者に男性が多く、また研究対象も男性とされていた背景がありました。

津島：具体的にはどんなケースがありますか？

天草：例えば、車の正面衝突実験では、ドライバー席に男性の人形のみ使われており、女性ドライバーが事故に遭った場合の重症率は47%も高くなっています。

津島：ええ！？そんなに違いが出るんですね。

他にも何かありますか？

天草：薬の効き目についても、男女で異なることがあります。例えばコロナウイルス感染症では、重症化率は高齢男性の方が多く、副反応は若い女性の方が多いという結果がありました。ということは、高齢の男性には規定よりも多くのワクチン投与が必要だったかもしれないし、若い女性には規定よりも少ないワクチンで十分だった、ということが言えるかもしれません。

津島：なるほどたしかにそうかもしれません。

天草：それに動物を使った実験に関しても、オスが多く使われている背景があります。しかし、最近では痛みの分野で、オスとメスとで痛みを感じる経路に違いがあるとわかってきたのです。

津島：それは大発見です！

天草：このように、性差があるのにも関わらず、男性（あるいはオス）を基準として開発や研究が行われているものは多くあります。

津島：まだまだ男性を基準とした研究や開発がありそうですね。

天草：身体的な性差だけでなく、ジェンダーによる性差もあります。例えば、男女で症状の訴え方に違いがあるかもしれません。

津島：症状の訴え方に？

天草：女性は人生の中で辛い痛みを我慢する経験をする可能性が多いことから、同じ痛みでも、女性はより我慢をしてしまい、結果その症状の程度が伝わりにくいということがあるかもしれません。

津島：女性の方が痛みに強いと言われますが、実は我慢してるからなのかも？

天草：また、一般的に介護保険サービスの利用者は平均寿命の長い女性の方が多いですが、車いす貸与の受給割合については、男性の方が多くなっています。

津島：へえ。そんな違いが…。なんでしょう？

天草：一つには、車いすの大きさが男性仕様になっているということがあるかもしれません。

津島：たしかに。高齢になると体格も変わっていきますしね。

天草：それ以外に、例えば自宅での介護生活を望むのが男性の方が多いからとか、平均寿命が長い女性は、たとえ車いすを借りたとしても、それを押ししてくれる夫の存在がないなどといった理由もあるかもしれません。

津島：それは本当にありそうですね。

天草：このように、私たちは同じ人間でも、男性と女性で傾向に違いが生じることがあります。しかし、これらはあくまで平均値の違いであり、これを根拠に「男だからこう」「女だからこう」と決めつけられるものではありません。

ただ、性差の視点が入ることで、これから新たな発見や社会の進歩が実現していくかもしれませんね。



第32回

R7.12放送

SNSがもたらす 認知バイアス

天草：今回は、SNSがもたらす認知バイアスについてお話したいと思います。

津島：どういうコトなのでしょう？教えてください。

天草：SNS上では、LGBTQへの批判的・差別的な書き込みが散見されることがあります。なぜネットではこのようなことが起こるのでしょうか？

津島：そうだったのですね。どうしてでしょう？

天草：そもそもメディアとは、「マスメディア」と「Webメディア」に大別できます。

「マスメディア」は、大衆に向けた伝達、つまり情報の生産者から消費者に対して一方的に伝達する方法をとっています。

一方で「Web」メディアは、SNSの登場により誰もが情報の発信者という立場を手にしたというのが根本的な違いです。

津島：今やだれもが発信者になりますよね。

天草：SNSの急激な普及により、「メディア・リテラシー」の必要性が叫ばれています。

津島：メディア・リテラシー？

天草：メディア・リテラシーとは、幅広く深い見識を持ち、物事をしっかりと把握して、適切な判断ができる力のことをいいます。

津島：それが必要！ということですね。

天草：メディア・リテラシーが低いと、根拠のない情報を鵜呑みにして、発信・拡散してしまうリスクがあります。

津島：昨今話題になっていますね。

天草：メディアで描かれている者は、誰かのバイアスがかかったものだと理解し、一歩引いた視点を持つことが重要です。

津島：その視点が大事ですね。

天草：とはいえ、私たちはみなステレオタイプなしに生きていくことはできません。

津島：多くの人に浸透している、思い込みや固定観念のことでしたね。

天草：ステレオタイプは、膨大な情報を効率よく理解するのに必要なものです。

津島：必要なものではあるんですね。

天草：しかし、メディアなどから強い影響を受け、現実の区別がつかなくなる程ステレオタイプが強化されてしまうことがあります。

津島：へえ。。。

天草：こうして偏った思い込みや固定観念によって合理的な思考ができなくなった状態のことを、「認知バイアス」と言います。

認知バイアスがかかると、自分が信じたい情報ばかりを重視し、それに反する情報は軽視し排除する心理が働くようになります。

津島：たしかに、そういうことはありそうです。

天草：今やスマホ保有率は9割を超え、またインターネット利用率は8割を超えており、多くの人が当たり前前にネットに触れる時代になっています。

津島：本当にそうですね。

天草：多くのSNSには、その人の興味ある情報だけを目にする「アルゴリズム機能」というものが備わっています。

天草：そして、自分と似た興味関心を持つ者同士が交流しやすい構造になっているため、偏った考えが増幅しやすい傾向にあります。

津島：知らず知らずのうちに影響を受けているのですね。

天草：特にSNSでは、わかりやすく言い切った強い論調が目目されやすく、それが正しいものでなくとも、多くの支持者を集めてしまいがちです。

津島：強い論調の方が興味を引きがちですね。

天草：ですので、LGBTQに関する批判的・差別的な書き込みについても、そうしたネットの性質によって、事実と異なる論調についても意見が交わされ、増幅されている可能性があるかもしれません。

津島：そうした可能性も認識しておく必要がありますね。

天草：差別と聞くと、悪意のある人が意図的にやっているものを想定しがちですが、実は多くの差別的な言動は悪意なく行われています。

津島：ふむ。

天草：ネット社会の現代だからこそ、今一度自分が極端な意見を信じ込んでいないか、立ち止まって考えてみてから発信しましょう。

津島：慎重に！ですね。

第33回

男性の育休取得 について

R7.12放送

天草：今回は、「男性の育休取得」についてお話したいと思います。

津島：よろしくお願いします。

天草：育児・介護休業法は1991年に成立しました。その後、2010年に、「パパ・ママ育休プラス」と「パパ休暇」が創設され、2017年には、「産後パパ育休」が創設されました。

2023年には、従業員数1000人以上の企業に対し、男性の「育休取得率」または「育休&育児目的休暇の取得率」の公表が義務付けられました。

津島：育休取得の制度にも様々な変遷があるんですね。

天草：直近では、2024年5月に改正育児・介護休業法が成立・施行されました。

津島：具体的にはどのような点が改正されたのですか？

天草：育児関係の主な改正事項として、まず4月に3つの事項が施行されました。

1つめは、残業免除の対象となる労働者の範囲を、小学校就学前の子を養育する労働者に拡大すること。

津島：それはありがたい。

天草：2つめは、子の看護休暇を感染症に伴う学級閉鎖等、入園(入学)式及び卒園式の場合も取得可能とし、対象となる子の範囲を小学校3年生まで拡大すること。

津島：こちらも助かります。

天草：3つめは、3歳になるまでの子を養育する労働者に関する努力義務の内容に、テレワークを追加することです。

津島：へえ。テレワーク。

天草：そして10月に、新たに2つの事項が施行されました。

天草：1つめは、3歳以上小学校就学前の子を養育する労働者に関し、事業主が職場のニーズを把握した上で、事業主が柔軟な働き方を実現するための措置を講ずることを義務付けること。また、当該措置の個別の周知・意向確認を義務付けることです。

津島：「柔軟な働き方を実現するための措置」というのは？

天草：①始業時刻等の変更

②テレワーク等

③保育施設の設置運営等

④養育両立支援休暇の付与

⑤短時間勤務制度

のことをいいます。

事業主はこのうち2つ以上の制度を選択して措置する必要があり、労働者はその中から1つを選択して利用することができます。

津島：2つめは？

天草：妊娠・出産の申出時や子が3歳になる前に、労働者の仕事と育児の両立に関する個別の意向の聴取・配慮を事業主に義務付けることです。

事業主は、3歳に満たない子を養育する労働者に対して、その子が3歳になるまでに、「柔軟な働き方を実現するための措置」として選択した制度について、個別に周知するとともに、その措置の利用意向を確認するために、面談等を実施する必要があります。

津島：状況は変化するでしょうか、面談等での意向確認は必要ですね。

天草：さらに、改正法には、育児の取得状況の公表義務の対象を、300人越の事業主に拡大することも盛り込まれました。

津島：進化していきますね。

天草：また、制度を十分活用できないまま介護離職に至ることを防止するため、改正法には次の事項が盛り込まれました。

1つめは、労働者が家族の介護に直面した旨を申し出たときに、両立支援制度等について個別の周知・意向確認を行うことを事業主に義務付けること。

2つめは、労働者等への両立支援制度等に関する早期の情報提供や、労働者への研修といった雇用環境の整備を事業主に義務付けることです。

津島：知らない人も多いのではないのでしょうか？周知、意向確認、そして雇用環境を整えることは本当に必要ですね。

天草：こうした取組によって、育児・介護休業法が成立した2010年当時は1%ほどだった男性の育休取得率は、2025年7月末の公表値では40.5%にまで増加しました。一方で、女性の育休取得率86.6%と比較すると、男性はまだまだ取得できていません。

津島：女性に比べるとまだ低いですが、15年でかなり変わったのだなという印象ですね。

第34回

R8.01放送

夫婦間における 家事育児の協力・分担

天草：ゲストをお呼びしました。父親家事育児応援団パスイッチの佐野大介さんです。

佐野：よろしくお願いします。

天草：今回は、佐野さんと一緒に「夫婦間における家事育児の協力・分担」についてお話ししたいと思います。

津島：よろしくお願いします。

佐野：私は、4人の子どもを持つ父親です。7年前に脱サラし、現在は託児所を運営しています。託児所を始めたときに妻との衝突が増えたのをきっかけに、団体を立ち上げました。

津島：普段はどのような活動をしていらっしゃるんですか？

佐野：普段はもこちゃんハウスという託児所がメインです。もこちゃんハウスが休みの日に、パスイッチの活動を行います。7年前に脱サラして、生活がガラリと変わりました。

佐野：一番変わったことは、妻と四六時中一緒だということ。

私は家事は一通りできると思っていたのですが、実際やってみて、自分のできなさを痛感しました。

津島：どんな気づきがあったのでしょうか？

佐野：例えば料理です。調味料が切れたとき、ストックがどこにあるかわからない。また、その時一回の料理に集中してしまい、後で妻から計画性のなさを指摘されることもありました。家事のなかの「料理」とは、単に作るのではなく、家族の生活や好みを考えて計画的にするものだと感じました。

津島：いい気づきがあったんですね。

佐野：この話を託児所を利用する人にも話したところ、共感がありました。

佐野：家族のことを考え、頑張ってるパパはたくさんいる。だけど、ママの求めているものと向きが違うのかもしれない。そこで団体を立ち上げることにしました。

津島：そこが素晴らしい！で、どんな活動を？

佐野：パパスイッチでは、子育て中のパパを集めて、お話し会を開いています。お話し会の条件は子どもを連れてくること。パパ同士で悩みや情報交換ができる場を作っています。

津島：画期的ですね。パパスイッチというネーミングも良いです。佐野さんは今度、島田市の講演会に登壇されるんですよね？

天草：そうなんです。これまでに開催した事業のアンケート等から、「男性の家庭参画についてのセミナーを開催してほしい」との声が複数あり、佐野さんを講師にセミナーを企画しました。

津島：セミナーの見どころはどんなところですか？

佐野：父親に家事育児を強制させるのが目的ではありません。夫婦間の考えを知ることと、お互いを尊重したコミュニケーションの方法をお伝えできればと思います。

津島：それは知りたいですね。

佐野：夫婦間で最適な分担バランスを考えるためには、コミュニケーションが必要です。でも、「今更コミュニケーションなんて」「何言っても無駄だし」と諦めてしまう方がいます。

佐野：今回のセミナーでは、上手くやっていくコツとともに、なんで上手くいかなくなってしまったのか、まで深掘りしてお伝えできればと思います。

津島：どちらも知りたいですね。しかし男性はこうしたセミナーへの参加のハードルが高いと感じる人も多いですが...そのあたりはいかがでしょう？

佐野：なぜ来にくいのかを考えてみると、「結局男が悪いんだろ？」と責められる不安があるからだと思います。でも安心してほしいのは、私も男性なので、私のセミナーでは男性を非難するようなことはしません。

津島：それは安心かも。

佐野：男性の家事育児と聞くと、その「手順」や「分担の割合」に注目しがちなのですが、そもそもなぜ「男性の家事育児が注目されているのか？」を知らなければ、失敗の原因になってしまいます。

夫婦間で家事育児の考え方の違いを知ること、より効率的な協力や分担ができるようになる。それは家族のためにも、自分のためにもなることを、皆さんと共有したいと思っています。

津島：まずは「知る」ことから。それが良い方向に向かっていく第一歩ですね。

第35回

同性カップルの 実態と現状

R8.02放送

天草：ゲストをお呼びしました。特定非営利活動法人カラフルブランケットの井上ひとみさんです。

井上：よろしくをお願いします。

天草：今回は、井上さんと「同性カップルの実態と現状」についてお話したいと思います。

津島：よろしくをお願いします。

井上：本業は獣医師をしており、仕事の合間を縫って団体の活動をしています。2015年に性の多様性を祝うイベントで公開結婚式を挙げ、2018年に大阪市のパートナーシップ制度を第1号で利用しました。

津島：良いご縁に出会えて本当に良かったですね。普段はどのような活動をしてらっしゃるんですか？

井上：私は、高校生の頃から35歳まで、同性愛者であることを必死に隠して生きてきました。

井上：同性愛者に対して「気持ち悪い」「受け付けられない」と言われ続けてきたからです。彼氏は？結婚は？と聞かれてもごまかして、必死で嘘をついていました。

津島：苦しい時期でしたね。

井上：公開結婚式で公にカミングアウトした際、偏見を持っていた友人が謝ってくれて、わざと傷つけているのではなく、知らないから無意識に傷つけてしまうことがあるのだと気づきました。その経験から、団体を立ち上げ、LGBTQに関する講演やイベントを行っています。

津島：井上さんは今度、島田市で性の多様性をテーマにした講演会にご登壇いただくことになっているんですよね？

天草：はい。島田市では毎年、市民向けに性の多様性理解促進セミナーを実施しています。

津島：見どころはどんなところですか？

井上：誰もが“自分らしく”生きるヒントや、無意識の偏見に気づくきっかけになれば嬉しいです。「同性愛者に会ったこともない」と思っている人にこそ来ていただきたいです。私たちは“特別な人”ではなく、当たり前前に存在している人です。どなたでも気軽にご参加いただきたいと思っています。

津島：LGBTQが身近にいることを「知らない」「気づかない」方々の気づきのきっかけになると良いですね。そして、パネル展も同時開催されるんですよね？

天草：そうなんです。「私たちだって“いいふうふ”になりたい展」を市役所ロビーで開催します！

津島：以前も市役所ロビーでLGBTQに関する企画展がありましたね。井上さんは、なぜこの展示を開催するようになったんですか？

井上：同性愛者は、よく“愛し合っていればそれでいいじゃないか”と言われることがありますが、現実には法的に家族になれないことで困ることや不安がたくさんあります。私自身も、パートナーと一緒に暮らすなかで、制度面の不安や悩みを抱えてきました。

展示を通じて、様々なカップルの思いや現状を知っていただき、共感や発見に繋がればと思います。

津島：そうだったんですね！どんな内容が展示されるんでしょう？

井上：展示では、同性婚に関する最新のデータや、同性婚ができない現状でできるかぎりできる備え、同性カップルがお互いに宛てた手紙などを展示しています。

津島：大切なお手紙を見せていただけるのですね。

井上：直筆にこだわったのは、同性カップルのリアルを伝えたいという気持ちからです。写真では、様々な形で“好きな人とふたりで生きる幸せ”を表現しています。ありのままを伝えることで、より多くの方にリアルな現状を知ってもらいたいと考えています。展示を見てくださった方が、“自分の知らない世界”や“当たり前と思っていたこと”を見つめ直すきっかけになれば嬉しいです。

津島：「知ること」こそ、私たち自身も「今」を生きることに繋がると思います。

井上：自治体によるパートナーシップ制度の導入が進んできましたが、法的な効力は限定的で、実際の生活ではまだ不便や不安が残ります。

“みんなが自分らしく生きられる社会”を目指すには、無意識の偏見を取り除くことが大切です。今後も、誰もが安心して暮らせる社会づくりに貢献していきたいです。

第36回

R8.03放送

“多様性”って なんだろう

天草：今回は、これまでの総括として、改めて「多様性ってなんだろう」ということについて考えていきたいと思います。

津島：よろしくお願いします。

天草：そもそもこの番組自体、私が島田市にアドバイザーとして任用されたことがきっかけで始まりました。この3年間で、LGBTQを取り巻く環境も、確実に変化してきましたね。

津島：そう感じます。

天草：2023年に県でパートナーシップ宣誓制度が導入されたり、国でも、いわゆるLGBT理解増進法が施行されたりしました。一方で、そうした動きに逆行する「バックラッシュ」も起こりました。

津島：「バックラッシュ」？

天草：バックラッシュとは、進歩的な動きに対する反動や揺り戻しのことです。

天草：しかし、時代の変化につれて確実に多様な性のあり方に対する人々の認知は進んでいます。

津島：認知が進んで、どんなことが変わりましたか？

天草：島田市では、2019年に性別欄の削除が可能である申請書等様式の調査を実施し、性別欄の記載に関する書類の見直しがされました。

現在では、様々な書類や入力フォーム等で、性別欄の記載が任意となっていたり、「その他」といった選択肢が追加されたりするケースを多く目にするようになりました。

津島：私も、そのような表記を気づけば目にするようになりました！

天草：また、法のあり方も今後変化していく可能性があります。

津島：例えば？

天草：性同一性障害特例法について、2023年に一部の要件が撤廃されたことから、現行の規定が適切かどうかは、今後の時代の流れによって変わっていくかもしれません。

また、同性カップル等の権利についても、今まさに同性婚訴訟が行われており、今後最高裁が統一判断を示すことが注目されています。

津島：そうでしたね。今後が気になります。

天草：自治体においても、性の多様性の理解促進に関する取組が、事業として実施される機会が増えました。

津島：自治体ごとに様々な取組が増えていったのですね。

天草：企業や学校等、様々な場面での出前講座の需要も伸びてきていると思います。

津島：今の世の中の流れを考えると、もっと知っておかなければならない、という方も増えているのでしょうか。

天草：現代は「多様性の時代」と言われるようになって、女性活躍や多様な性のあり方も、その「多様性」に含まれるようになりました。

私たちは「〇〇の人」というカテゴリーではなく、個々の人間にフォーカスして見る傾向が、より強くなったのだと思います。

津島：まさに、ひとりひとりみんな違っていい なんですよね。

天草：ところで、シマカコさんはこれまでの放送を通じて、なにか新しい発見や気づきはありましたか？

津島：はい。はじめはLGBTQって聞いたことがある・・・ぐらいだったのですが、これまで知らなかった用語をたくさん知ることになりました。

例えば、SOGI(ソジ/ソギ)やALLY(アライ)など。また、セクシュアリティ(性のあり方)の種類についても、回を追うごとに新しい言葉に出会いました。

天草：LGBTQは数としては少数ですが、種類は無限にありますからね。

津島：天草さんは、放送に携わっていかがでしたか？

天草：最初はどのような放送になるのだろうと思っていましたが、シマカコさんのおかげで毎回楽しく番組に臨むことができました。

この現場のように、多様性を受け入れる環境が、様々なマイノリティの人々の周りにもあるといいなと思います。

津島：そうですね。これまでの放送もぜひ皆さんに聞いていただきたいです！

天草：これまでの放送は、市役所HPより視聴できます。ぜひお聴きください。

津島：天草さん、3年間お疲れさまでした！

おわりに

これまでの放送はこちらから
視聴できます。↓



島田市の多様な性のあり方に関
する情報はこちらで発信して
います。↓



多様性ってなんだろう



島田市市民協働課（令和8年4月 発行）

〒427-8501 静岡県島田市中心1-1

☎0547-36-7403

shiminkyodo@city.shimada.lg.jp